

他ノ物件ヲ置キ又ハ交通ノ妨害ト爲ルヘキ行爲ヲ爲シタル者

一三、公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ危險ノ虞アルトキ點燈其ノ他豫防ノ裝置ヲ爲スノ義務ヲ怠リタル者

一四、劇場、寄席其ノ他公衆會同ノ場所ニ於テ會衆ノ妨害ヲ爲シタル者

一五、雜沓ノ場所ニ於テ制止ヲ肯セス混雜ヲ増スノ行爲ヲ爲シタル者

一六、人ヲ誑惑セシムヘキ流言浮説又ハ虚報ヲ爲シタル者

一七、妄ニ吉凶禍福ヲ説キ又ハ祈禱、符呪ヲ爲シ若ハ守札類ヲ授與シテ人ヲ惑ハシタル者

一八、病者ニ對シ禁厭、祈禱、符呪等ヲ爲シ又ハ神符、神水等ヲ與ヘ醫療ヲ妨ケタル者

一九、濫ニ催眠術ヲ施シタル者

二〇、官職、位記、勳爵、學位ヲ詐リ又ハ法令ノ定ムル服飾徽章ヲ借用シ若ハ之ニ類似ノモノヲ使用シタル者

二一、官公署ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ其ノ義務アル者ニシテ故ナク申述ヲ肯セサル者

二二、人ノ飲用ニ供スル淨水ヲ汚穢シ又ハ其ノ使用ヲ妨ケ若ハ其ノ水路ニ障礙ヲ爲シタル者

類スル物ヲ汚漬シタル者

三四、人ノ死屍又ハ死胎ヲ隠匿シ又ハ他物ニ紛ハシク擬裝シタル者

三五、一定ノ飲食物ニ他物ヲ混シテ不正ノ利ヲ圖リタル者

三六、不熟ノ果物、腐敗ノ肉類其ノ他健康ヲ害スヘキ飲食物ヲ營利ノ用ニ供シタル者

三七、濫ニ他人ノ繫キタル舟筏、牛馬其ノ他ノ獸類ヲ解放シタル者

第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二十圓未滿ノ科料ニ處ス

一、許可ナクシテ人ノ死屍又ハ死胎ヲ解剖シ又ハ之カ保存ヲ爲シタル者

二、公衆ノ目ニ觸ルヘキ場所於テ袒裼、裸裎シ又ハ臀部、股部ヲ露ハシ其ノ他醜態ヲ爲シタル者

三、街路ニ於テ尿尿ヲ爲シ又ハ爲サシメタル者

四、濫ニ銃砲ノ發射ヲ爲シ又ハ火藥其ノ他劇發スヘキ物ヲ玩ヒタル者

五、家屋其ノ他ノ建造物若ハ引火シ易キ物ノ近傍又ハ山野ニ於テ濫ニ火ヲ焚ク者

六、石灰其ノ他自然發火ノ虞アル物ノ取扱ヲ忽ニシタル者

二三、河川、溝渠又ハ下水路ノ疏通ヲ妨クヘキ行爲ヲ爲シタル者

二四、自己又ハ他人ノ身體ニ刺文シタル者

二五、出入ヲ禁止シタル場所ニ濫ニ出入シタル者

二六、官公署ノ榜示シ若ハ官公署ノ指揮ニ依リ榜示セル禁條ヲ犯シ又ハ其ノ設置ニ係ル榜標ヲ汚漬シ若ハ撤去シタル者

二七、水火災其ノ他ノ事變ニ際シ制止ヲ肯セスシテ其ノ現場ニ立入り又ハ其ノ場所ヨリ退去セス又ハ官吏ヨリ援助ノ求ヲ受ケタルニ拘ラス傍觀シテ之ニ應セサル者

二八、濫ニ他人ノ標燈又ハ社寺、道路、公園其ノ他ノ公衆用ノ常燈ヲ消シタル者

二九、他人ノ田野、園圃ニ於テ菜果ヲ採摘シ又ハ花卉ヲ採折シタル者

三〇、使用者ニシテ勞役者ニ對シ故ナク其ノ自由ヲ妨ケ又ハ苛酷ノ取扱ヲ爲シタル者

三一、濫ニ他人ノ身邊ニ立塞リ又ハ追隨シタル者

三二、他人ノ身體、物件又ハ之ニ害ヲ及ボスヘキ場所ニ對シ物件ヲ抛擲シ又ハ放射シタル者

三三、神祠、佛堂、禮拜所、墓所、碑表、形像、其ノ他之ニ

七、開業ノ產婆故ナク妊婦、産婦ノ招キニ應セサル者

八、故ナク官公署ノ召喚ニ應セサル者

九、炮煮、洗滌、剥皮等ヲ要セス其ノ儘食用ニ供スヘキ飲食物ニ覆蓋ヲ設ケス店頭ニ陳列シタル者

一〇、濫ニ禽獸ノ死屍又ハ汚穢物ヲ棄擲シ又ハ之カ取除ノ義務ヲ怠リタル者

一一、監置ニ係ル精神病者ノ監護ヲ怠リ屋外ニ徘徊セシメタル者

一二、濫ニ犬其ノ他ノ獸類ヲ嘍シ又ハ驚逸セシメタル者

一三、狂犬、猛獸等ノ繫鎖ヲ怠リ逸走セシメタル者

一四、公衆ノ目ニ觸ルヘキ場所ニ於テ牛馬其ノ他ノ動物ヲ虐待シタル者

一五、濫ニ他人ノ家屋其ノ他ノ工作物ヲ汚漬シ若ハ之ニ貼紙ヲ爲シ又ハ他人ノ標札、招牌、賣貸家札其ノ他榜標ノ類ヲ汚漬シ若ハ撤去シタル者

一六、橋梁又ハ堤防ヲ損壞スルノ虞アル場所ニ舟筏ヲ繫キタル者

一七、通路ナキ他人ノ田圃ヲ通行シ又ハ此ニ牛馬諸車ヲ牽入レタル者

第四條 本令ニ規定シタル違反行爲ヲ教唆シ又ハ幫助シタル者

者ハ各本條ニ照シ之ヲ罰ス、但シ情狀ニ依リ其ノ刑ヲ免除
スルコトヲ得

附 則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第八類
司法保護事業

免囚保護事業獎勵費取扱規程

大正九年三月一日
司法省令 第四號

第一條 免囚保護事業獎勵金ハ毎年一回其ノ年度内ノ事業ニ對シ之ヲ下付ス

前項ノ年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ルモノトス

第二條 獎勵金ノ下付ヲ受ケムトスル者ハ其ノ所在地ヲ管轄スル監獄ノ典獄ヲ經由シ毎年四月三十日マテニ申請書ヲ司法大臣ニ差出スヘシ

少年法ニ依リ少年ノ保護ニ從事スル者ハ所轄少年審判所ノ長ヲ經由シ前項ノ申請書ヲ差出スヘシ

第三條 申請書ニハ下付ヲ求ムル事由竝ニ本規程ヲ遵守スヘキ旨ヲ明示シ且事業成績表、收支計算書資産表ヲ添附スヘシ

初テ獎勵金ノ下付ヲ申請スル者ハ前項ノ書類ノ外會則又ハ事業趣意書ヲ添附スヘシ

第四條 獎勵金ヲ下付スヘキモノト認ムルトキハ支給スヘキ

金額ヲ指定シ之ヲ申請人ニ告知ス

金額ノ支給ハ所轄典獄又ハ少年審判所ノ長ヲ經由シテ之ヲ爲ス

第二項ノ手續ヲ終ラサル前獎勵金ヲ下付スルニ適セサル事情アルコトヲ發見シタルトキハ第一項ノ告知ヲ取消スヘシ

第五條 獎勵金ノ下付ヲ受ケタル者ハ左ノ義務ヲ負フモノトス

一、事業ノ經營竝ニ金錢ノ出納ニ付所在地ヲ管轄スル監獄ノ典獄又ハ少年審判所ノ長及財團法人輔成會管理者ノ指揮監督ヲ受クルコト

二、保護事業ヲ中止若ハ廢止シ主管者又ハ會則ヲ變更シタルトキ及執務上重要ナル事故發生シタルトキハ所轄典獄又ハ少年審判所ノ長ヲ經由シ速ニ其ノ旨ヲ司法大臣ニ申報スルコト

第六條 本規程ニ依リ典獄又ハ少年審判所ノ長ヲ經由スル書類ハ典獄又ハ少年審判所ノ長之ヲ審査シテ意見ヲ附シ遲滞ナク司法大臣ニ進達スヘシ

第七條 典獄又ハ少年審判所ノ長ハ少クトモ毎年一回其ノ管内ニ在リテ獎勵金ノ下付ヲ受ケタル者ヲ觀察シ其ノ事業ノ管理經營ニ關スル狀況ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

本令ハ大正九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

出獄人保護ニ關スル取扱方法

大正九年九月三十日
縣訓令 第四號

- 第一條 市町村長警察署長警察分署長ハ監獄官ヨリ出獄人ノ保護又ハ引渡等ニ關シ囑託アリタルトキハ成ルヘク相當ノ便宜ヲ與フヘシ
- 第二條 市町村長警察署長警察分署長ハ出獄人保護者ニ對シテハ充分ノ同情ヲ以テ斡旋盡力ヲ爲シ之カ保護上遺憾ナカラシムルコトヲ期スヘシ
- 第三條 保護ヲ要スル出獄人ニ對シテハ成ルヘク速ニ個人又ハ團體等ニ紹介シ適當ノ職業ニ就カシムルノ方法ヲ講シ自活ノ途ヲ立テシムルヲ目的ト爲スヘシ
- 第四條 市町村長警察署長警察分署長ハ監獄官又ハ出獄人保護者ヨリ出獄人ノ身上ニ關スル事實ノ取調ニ付要求アリタルトキハ成ルヘク詳細且迅速ニ其ノ要求ニ應スヘシ
- 第五條 出獄人ノ保護ニ關シテハ關係官公署ハ互ニ協議ヲ遂クヘシ

大阪控訴院管内司法保護事業研究會會則

大正十一年七月二十七日
設立

- 第一條 本會ハ大阪控訴院管内司法保護事業研究會ト稱ス
 - 第二條 本會ハ事務所ヲ堺市大阪刑務所内ニ置ク
 - 第三條 本會ハ司法保護事業ヲ研究シ斯業ノ改善發達ニ努ムルト共ニ各團體ノ聯絡及會員相互ノ親睦ヲ計ルコトヲ目的トス
 - 第四條 本會ハ大阪控訴院管内ニ於ケル司法保護團體及同事業ニ從事スル者ヲ以テ之ヲ組織ス
 - 第五條 本會ニ會長理事及書記ヲ置ク
 - 第六條 會長ハ大阪控訴院檢察長ヲ推戴シ本會ノ事務ヲ統轄ス
- 會長差支アルトキハ理事ノ内ヨリ其代理者ヲ指名ス
理事ハ大阪控訴院内各刑務所長教務主任並ニ各府縣團體ヨリ一名乃至三名ヲ選定シタルモノヲ以テ之ニ充テ會務ヲ處理ス
常務理事ハ會長所在地ノ理事之ヲ互選ス

府縣選定理事ノ任期ハ三年トス

書記ハ會長之ヲ選任シ會長及理事ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第七條 本會ノ經費ハ補助金寄附金及各保護會並ニ會員ノ醵

出金ニ依ル

醵出金ノ割當額ハ理事ニ於テ之ヲ決定ス

第八條 本會ハ毎年一回總會ヲ開キ事業ニ關スル決議及會計

ノ報告ヲ爲ス

第九條 總會ノ際事業ノ宣傳普及ヲ圖ル爲講演會ヲ開ク

第十條 本會ニ入會セムト欲スル者ハ入會書ヲ會長ニ提出シ

其ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第十一條 本會ニハ左ノ帳簿ヲ設ク

一、加盟團體及會員名簿

二、議事錄

三、會計簿

第九類
海外移住

移民保護法

明治二十九年四月八日
法律第七〇號

第一章 移民

第一條 本法ニ於テ移民ト稱スルハ勞働ニ從事スルノ目的ヲ以テ(清韓)兩國以外ノ外國ニ渡航スル者及其ノ家族ニシテ之ヲ同行シ又ハ其ノ所在地ニ渡航スル者ヲ謂フ

前項勞働ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 移民ハ行政廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ外國ニ渡航スルコトヲ得ス

渡航ノ許可ハ其ノ許可ノ日ヨリ六箇月以内ニ出發セサルトキハ効力ヲ失フモノトス

第三條 行政廳ハ渡航スヘキ土地ノ狀況ニ因リ移民取扱人ニ依ラサル移民ヲシテ適當ト認ムル二人以上ノ保證人ヲ定メシムルコトヲ得

保證人ハ移民ノ疾病其ノ他困難ノ場合ニ於テ之ヲ救助シ若ハ歸國セシムヘシ又行政廳ニ於テ移民ヲ救助シ若ハ歸國セシメタルトキハ其ノ費用ヲ辨償スヘシ

第四條 行政廳ハ移民保護ノ爲若ハ公安保持ノ爲又ハ外交上必要ト認ムルトキハ移民ノ渡航ヲ差止メ又ハ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得

渡航差止中ノ日數ハ第二條第二項ノ期間ニ算入セス

第二章 移民取扱人

第五條 本法ニ於テ移民取扱人ト稱スルハ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス移民ヲ募集シ又ハ其ノ渡航ヲ周旋スルヲ以テ營業ト爲ス者ヲ謂フ

移民取扱人ハ行政廳ノ許可ヲ得テ移民ト直接ノ關係ヲ有スル業務ヲ營ムコトヲ得

第六條 移民取扱人タラムト欲スル者ハ行政廳ノ許可ヲ受クヘシ、移民取扱人ノ許可ハ其ノ許可ノ日ヨリ六箇月以内ニ營業ヲ開始セサルトキハ効力ヲ失フモノトス

第七條 帝國臣民又ハ帝國臣民ノミヲ社員若ハ株主トスル商事會社ニシテ帝國ニ於テ主タル營業所ヲ有スルモノニ非サレハ移民取扱人タルコトヲ得ス

前項ノ外移民取扱人ニ要スル資格ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條ノ二 移民取扱人ハ渡航ノ周旋ヲ爲シタル移民ニ對シ渡航ノ日ヨリ滿十ヶ年間第三條第二項ニ規定シタル保證人ノ義務ヲ負フ

第八條 行政廳ハ移民取扱人ノ行爲法律命令ニ違反シタルトキ若ハ公安ヲ害スルモノト認ムルトキ又ハ移民取扱人保證金ノ納付ヲ遲滯シタルトキハ其ノ營業ヲ停止シ又ハ營業ノ

許可ヲ取消スコトヲ得

第九條 移民取扱人ハ營業ヲ停止セラレ又ハ休業シタルトキト雖モ既ニ渡航セシメタル移民ニ對シ契約ノ履行ヲ中止スルコトヲ得ス

第十條 移民取扱人代理人ヲ定メ其ノ業務ヲ行ハシムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

第十一條 移民取扱人ハ業務擔當社員若ハ取締役又ハ代理人ヲ在留セシメサル地ニ移民ヲ渡航セシムルコトヲ得ス

第十二條 移民取扱人ハ移民トシテ渡航スル者ニ非サレハ其ノ周旋又ハ募集ヲ爲スコトヲ得ス

第十三條 移民取扱人ハ勞働契約ニ因リ渡航スル移民ノ渡航ノ周旋又ハ募集ヲ爲ストキハ移民ト書面契約ヲ爲シ行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

前項契約ニ必要ナル條件ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第十四條 移民取扱人ハ手数料ノ外何等ノ各義ヲ以テスルヲ問ハス移民ヨリ金錢又ハ物品ヲ受クルコトヲ得ス、但シ其ノ手数料ハ豫メ行政廳ノ認可ヲ受クヘシ

第十五條 移民取扱人移民ヲ募集スルトキハ出發セシムヘキ期日ヲ豫定シテ之ヲ示スヘシ、移民取扱人正當ノ理由ナクシテ豫定ノ期日內ニ移民ヲ出發セシメサルトキハ其ノ出發

ノ必要アリト認ムル間ハ移民又ハ其ノ相續人カ本法ニ從ヒタル契約ニ基キ權利ヲ執行スル場合ノ外何人ト雖モ保證金ニ對シテ債權取立ヲ爲スコトヲ得ス

第四章 移民運送船

第二十條ノ二 本法ニ於テ移民運送船ト稱スルハ命令ヲ以テ定ムル地方ニ渡航スル五十人以上ノ移民ヲ搭載スル船舶ヲ謂フ

第二十條ノ三 移民運送船ニ依リ移民ノ運送ハ行政廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ許可ヲ受ケタル者ハ行政廳ノ定ムル所ニ依リ保證金ヲ納付スヘシ

第二十條ノ四 行政廳ハ前條ノ許可ヲ受ケタル者ノ行爲ニシテ法令若ハ許可ノ條件ニ違反シタルトキ又ハ移民ノ利益ヲ害スルモノト認ムルトキハ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第二十條ノ五 移民運送船ニ依リ移民ノ運送ヲ爲サムトスル者ハ其ノ運送貨ニ關シ豫メ行政廳ノ認可ヲ受クヘシ

第二十條ノ六 行政廳ハ移民運送船ノ發着港ヲ指定スルコトヲ得

第二十條ノ七 行政廳ハ移民運送船ノ船長ヲシテ運送移民ニ關スル諸般ノ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

延期ノ爲ニ生スル移民ノ費用ヲ負擔スヘシ

第十五條ノ二 行政廳ハ必要ト認ムルトキハ移民取扱人ニ同業組合ノ設立ヲ命スルコトヲ得

同業組合ハ法人トス

同業組合ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三章 保 證 金

第十六條 移民取扱人ハ行政廳ニ保證金ヲ納付シタル後ニ非サレハ其ノ營業ヲ開始スルコトヲ得ス

保證金額ハ一萬圓以上トシ行政廳之ヲ定ム

第十七條 行政廳ハ必要ト認ムルトキハ保證金額ヲ増減スルコトヲ得但シ前條ノ金額以下ニ下スコトヲ得ス

第十八條 行政廳ニ於テ移民ニ對シ契約ヲ履行セヌ又ハ第七條ノ二ニ規定シタル保證人ノ義務ヲ履行セスト認メタルトキハ保證金ヨリ其ノ費用ヲ支出シテ移民ヲ救助シ又ハ歸國セシムルコトヲ得

第十九條 移民取扱人死亡解散、營業許可ノ取消又ハ其ノ他ノ理由ニ依リ營業ヲ廢止スルモ保證金ハ行政廳ニ於テ領置ノ必要アリト認ムル間ハ其ノ全部又ハ一部ヲ還付セサルコトヲ得

第二十條 移民取扱人營業中及前條行政廳ニ於テ保證金領置

第五章 雜 則

第二十條ノ八 金貨貸付ヲ業トスル者ニシテ移民ニ對シ渡航費其ノ他ノ渡航ノ準備ニ必要ナル金錢ヲ貸與スルトキハ其ノ條件ニ付豫メ行政廳ノ認可ヲ受クヘシ

第二十條ノ九 移民出發港ニ於テ移民宿泊業ヲ營マムトスル者ハ行政廳ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ認可ヲ受ケタル者ハ移民宿泊所ノ設備、移民ノ給養並ニ宿泊料其ノ他移民ノ負擔ト爲ルヘキ事項ニ付豫メ行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

第二十條ノ十 移民取扱人ニ非スシテ移民乗船ニ關スル周旋ヲ爲サムトスル者ハ行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ許可ヲ受ケタル者ハ移民乗船ニ關スル周旋ノ方法及移民ノ負擔ト爲ルヘキ事項ニ付豫メ行政廳ノ認可ヲ受クヘシ

第二十條ノ十一 行政廳ハ前二條ノ許可ヲ受ケタル者ノ行爲ニシテ法令ニ違反シタルトキ又ハ移民ノ利益ヲ害スルモノト認ムルトキハ其ノ營業ヲ停止シ又ハ營業ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第六章 罰 則

第二十一條 渡航ノ許可ヲ受ケヌ又ハ渡航地ヲ許リテ許可ヲ

受ケ又ハ渡航差止命令ニ違反シテ渡航シタル移民ハ五百圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 法律命令ニ違反シタル移民ノ渡航ヲ周旋シ又ハ渡航差止中ニ移民ヲ渡航セシメタル移民取扱人及代理人ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 行政廳ノ許可ヲ受ケスシテ移民取扱人ノ行爲ヲ爲シタル者又ハ營業停止中ニ移民ヲ募集シ又ハ其ノ渡航ノ周旋ヲ爲シタル移民取扱人及代理人ハ二百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

行政廳ノ許可ヲ受ケスシテ第五條第二項ノ營業ヲ爲シタル移民取扱人亦前項ニ同シ

第二十四條 移民取扱人行政廳ノ許可ヲ受ケサル代理人ヲシテ其ノ行爲ヲ爲サシメタルトキハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス、其ノ行爲ヲ爲シタル代理人亦同シ

第二十五條 第十一條、第十二條、第十三條、第十四條及第十六條第一項ニ違反シタル移民取扱人及代理人ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 誘惑ノ手段ヲ以テ移民ヲ募集シ若ハ渡航ノ周旋ヲナシタル移民取扱人及代理人ハ一月以上一年以下ノ(重禁錮)ニ處ス

第二十六條ノ二 第二十條ノ三ニ違反シタル者ハ五百圓以上一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條ノ三 第二十條ノ五ニ違反シタル者ハ二百圓以上三千圓以下ノ罰金ニ處ス、行政廳カ移民運送船ノ發着港ヲ指定シタル場合ニ於テ其ノ指定ニ違反シタル者亦同シ

第二十六條ノ四 第二十條ノ七ニ依リ行政廳ノ命シタル報告ヲ爲ササル者ハ五十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條ノ五 第二十條ノ八、第二十條ノ九及第二十條ノ十二ニ違反シタル者ハ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條 本法ノ罰則ハ商會社ニ在リテハ其ノ各條ニ掲タル行爲ヲ爲シタル業務擔當社員又ハ取締役ニ之ヲ適用ス

第七章 附 則

第二十八條 本法施行以前ヨリ當該官廳ノ許可ヲ受ケ營業スル移民取扱人ハ本法施行ノ際別ニ許可ヲ受ケルヲ要セス本法ノ規程ニ依リ其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得但シ其ノ營業ヲ繼續セサルトキト雖モ其ノ既ニ納付シタル保證金ニ對シテハ仍本法ノ規程ヲ適用ス

第二十九條 本法ハ帝國ト締結シタル特別ノ條約ニ基キ渡航スル移民及其ノ取扱人ニ適用セス

第三十條 本法施行ノ爲ニ必要ナル細則ハ命令ヲ以テ之ヲ定

外務大臣之ヲ告示ス

第四條 移民保護法第三條ノ保證人ハ本籍地又ハ寄留地ノ地方長官ニ於テ適當ト認ムル者ニ限ル

第二章 移民取扱人

第五條 移民取扱人タラムトスル者ハ左ノ事項ヲ詳記シ外務大臣ニ出願シテ許可ヲ受クヘシ但シ商會社ノ場合ニ於テ合名會社ニ在リテハ總社員、合資會社ニ在リテハ無限責任社員、株式會社ニ在リテハ發起人又ハ取締役、株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ヨリ出願シ且定款ヲ添附スルコトヲ要ス

一、商號アルモノハ其ノ商號

二、營業 所

三、營業資本金額

四、營業年限ヲ定ムルモノハ其ノ年限

五、移民ヲ渡航セシムヘキ地

六、移民募集ノ方法及其ノ渡航前後ニ於ケル周旋方法

七、出願者ノ履歷

八、出願者ノ財産但シ合名會社及合資會社ニ在リテハ各社員ノ出資額及財産、株式會社ニ在リテハ發起人又ハ取締役ノ株式引受又ハ所有額及財産並ニ株式ノ總數及一

第三十一條 本法ハ明治二十九年六月一日ヨリ施行ス
明治二十七年勅令第四十二條移民保護規則ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

移民保護法施行細則

明治四十年六月八日
外務省令第三號

第一章 移 民

第一條 移民保護法第一條ノ勞働ハ農業、林業、水産、鑛業、土石採取、工業、染色、洗濯、土木、建築、印刷、製本、旅館、料理、娛樂、理髮、交通及運輸ニ關スル勞働並ニ行商其ノ他肉體の勞務ヲ主トスル勞働トス

第二條 移民渡航ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ本籍地、寄留地、身分、職業、氏名、生年月日ト共ニ渡航地及渡航目的ヲ記載シ本籍地又ハ寄留地ノ地方長官ニ出願スヘシ
前項ノ出願書ニハ移民取扱人ニ依ル者ニ在リテハ移民取扱人之ニ連署シ移民保護法第三條ニ依リ保證人ヲ要スル地ニ渡航スル者ニ在リテハ保證人之ニ連署スヘシ但シ契約移民ニ在リテハ出願ノ際移民保護法第十三條第一項ノ契約書寫ヲ添附スヘシ

第三條 移民保護法第三條ニ依リ保證人ヲ定メシムヘキ地ハ

株ノ金額、株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ出資額、株式引受額及財産並ニ株式總數及一株ノ金額
 移民取扱人ノ相續人ニシテ其ノ營業ヲ繼續セムトスル者又ハ移民取扱人ノ營業ヲ譲リ受ケムトスル者ニ關シテハ前項ノ規定ヲ準用ス

第六條 移民取扱人前條ニ依リ許可ヲ受ケタル後左ノ場合ニ於テハ外務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

一、前條第一項第二號乃至第六號ニ掲ケタル事項ヲ變更セムトスルトキ

二、合名會社及合資會社ニ在リテハ社員及其ノ出資額ヲ變更セムトスルトキ又ハ新ニ社員ヲ加入セシメムトスルトキ但シ新ニ社員ト爲リタル者ニ關シテハ其ノ履歷書及財産調書、出資額ヲ變更セムトスル者ニ關シテハ其ノ財産調書ヲ添附スルヲ要ス

三、株式會社ニ在リテハ取締役ヲ選任セムトスルトキ並ニ資本金、株式ノ總數及一株ノ金額ヲ變更セムトスルトキ

四、株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員及其ノ出資額又ハ株式引受額ヲ變更セムトスルトキ又ハ株式ノ總數及一株ノ金額ヲ變更セムトスルトキ

第七條 左ノ事項ハ移民取扱人ニ於テ一週間以内ニ外務大臣

リ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者

四、禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル時ヨリ其ノ裁判確定スルニ至ル迄ノ者

第九條 移民取扱人移民保護法第五條第二項ノ業務ヲ兼營セムトスルトキハ左ノ事項ヲ詳記シ外務大臣ニ出願シテ許可ヲ受クヘシ

一、兼營スヘキ業務ノ種類及其ノ業務ヲ經營セムトスル地方

二、兼營スヘキ業務ト移民トノ關係

三、兼營スヘキ業務ニ充當スヘキ資本金額

四、兼營スヘキ業務經營ノ方法

移民取扱人移民渡航地ニ於テ業務ヲ兼營セムトスル場合ニ於テハ前項ノ出願書ニ該地方ノ狀況書ヲ添附スルヲ要ス

第十條 移民取扱人前條ニ依リ許可ヲ受ケタル後其ノ業務ノ兼營ヲ廢止セムトスルトキ又ハ前條第一項各號ニ掲ケタル事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事情ヲ詳記シ外務大臣ニ出願シテ許可ヲ受クヘシ

第十一條 移民保護法第十條ニ依リ移民取扱人ニ於テ代理人ヲ定メムトスルトキハ左ノ事項ヲ詳記シタル書類ヲ添附シ外務大臣ニ出願シテ許可ヲ受クヘシ

ニ届出ツヘシ

一、屋號ノ新設、取得、變更又ハ廢止

二、開業ノ年月日

三、業務執行社員ノ選任及業務執行社員又ハ取締役ノ解任又ハ死亡

四、同一廳府縣内ニ於ケル主タル營業所ノ移轉

五、支店又ハ出張所ノ廢置移轉

六、前條ニ掲ケタルモノノ外法令ノ規定ニ依リ登記シタル事項

七、商事會社ニ在リテハ前條第二號乃至第四號ニ掲ケタルモノノ外定款ヲ變更シタルトキ

移民取扱人死亡シタルトキハ其ノ相續人ヨリ届出ヲ爲スヘシ、主タル營業所ヲ置ク廳府縣以外ノ地ニ於ケル支店又ハ出張所ノ廢置移轉ハ一週間以内ニ其ノ地ノ地方長官ニ届出ツヘシ

第八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者及外務大臣ニ於テ不適當ト認ムル者ハ移民取扱人又ハ代理人タルコトヲ得ス

一、禁治產者及準禁治產者

二、剝奪公權者及停止公權者

三、家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨ

一、内地代理人ト海外代理人ノ別

二、代理人ノ履歷

三、代理人ノ財産

外務大臣前項ノ許可ヲ與ヘタルトキハ附屬第一號書式ノ許可證ヲ移民取扱人ニ下付ス、但シ移民取扱人ハ該許可證ヲ代理人ニ交付スヘシ

代理人ノ解任又ハ死亡ハ移民取扱人ニ於テ解任ノ日又ハ死亡ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ一週間以内ニ外務大臣ニ届出ツヘシ

第十二條 外務大臣ハ代理人ノ行爲法令ニ違反シタルトキ又ハ公益ヲ害スルモノト認メタルトキハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第十三條 移民取扱人又ハ代理人カ本店、支店又ハ出張所ニ於テ使用スル事務員ノ選任ハ所在地地方長官ノ定ムル所ニ依リ同長官ニ出願シテ認可ヲ受クヘシ

地方長官前項事務員ノ行爲法令ニ違反シタルトキ又ハ公益ヲ害スルモノト認メタルトキハ之カ解任ヲ移民取扱人又ハ代理人ニ命スルコトアルヘシ

第十四條 代理人其ノ業務ヲ行フトキハ許可證ヲ移民取扱人又ハ代理人ノ使用スル事務員其ノ事務ヲ行フトキハ認可證

又ハ代理人ノ使用スル事務員其ノ事務ヲ行フトキハ認可證

又ハ代理人ノ使用スル事務員其ノ事務ヲ行フトキハ認可證

又ハ代理人ノ使用スル事務員其ノ事務ヲ行フトキハ認可證

又ハ代理人ノ使用スル事務員其ノ事務ヲ行フトキハ認可證

又ハ代理人ノ使用スル事務員其ノ事務ヲ行フトキハ認可證

又ハ代理人ノ使用スル事務員其ノ事務ヲ行フトキハ認可證

又ハ代理人ノ使用スル事務員其ノ事務ヲ行フトキハ認可證

ヲ携帶スヘシ

代理人死亡シタルトキ解任セラレタルトキ又ハ其ノ許可ヲ取消サレタルトキハ移民取扱人ハ遲滞ナク許可證ヲ外務大臣ニ返納スヘシ

移民取扱人又ハ代理人ノ使用スル事務員死亡シタルトキ又ハ解任セラレタルトキハ移民取扱人又ハ代理人ハ遲滞ナク其ノ認可證ヲ當該地方長官ニ返納スヘシ

第十五條 業務執行社員取締役又ハ代理人ニシテ移民渡航地ニ渡航スルトキ又ハ渡航地ヨリ歸國シタルトキハ移民取扱人ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ外務大臣ニ届出ツヘシ
業務執行社員、取締役又ハ代理人ニシテ移民渡航地ニ到着シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ所轄在外帝國官廳ニ届出ツヘシ

第十六條 移民渡航地ニ在留スル業務執行社員、取締役又ハ代理人ニシテ歸國ノ爲出發セムトスルトキ又ハ一時其ノ地ヲ立去ラムトスルトキハ所轄在外帝國官廳ニ出願シテ許可ヲ受クヘシ
在外帝國官廳カ前項歸國ノ許可ヲ與フル場合ハ他ノ業務執行社員、取締役又ハ代理人カ其ノ地ニ在留スルトキニ限ル

第十七條 外務大臣必要ト認ムルトキハ移民取扱人カ移民渡

航地内ニ於テ業務執行社員、取締役又ハ代理人ヲ在留セシムヘキ場所ヲ指定スルコトアルヘシ

第十八條 移民渡航地ニ在留スル業務執行社員、取締役又ハ代理人ハ移民名簿ヲ備ヘ移民ノ就業地職業及雇主ノ氏名ヲ明記シ且契約移民ニ就テハ賃金支拂簿ヲ備ヘ官廳ノ命アル時ハ何時ニテモ之ヲ示スヘシ

第十九條 移民ニシテ渡航地外ニ轉任シタルトキハ其ノ渡航地ニ在留スル業務執行社員、取締役又ハ代理人ハ遲滞ナク其ノ氏名及轉任地ヲ在留地及轉任地ノ在外帝國官廳ニ届出ツヘシ
前項ノ場合ニ於テ移民取扱人ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ外務大臣ニ届出ツヘシ

第二十條 移民取扱人移民ヲ募集セムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ毎年豫メ外務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

- 一、移民ヲ渡航セシムヘキ地及該地方ノ狀況
- 二、移民取扱ニ關シ外國官憲又ハ外國若ハ内國ノ會社個人等ト契約アルトキハ該契約書寫
- 三、募集移民ノ資格條件
- 四、移民ノ業務及其ノ收入又ハ所得ノ豫定額
- 五、移民ノ負擔トナルヘキ金額

六、移民トノ契約書案

七、其ノ年四月一日ヨリ翌年三月末日ニ至ル間ノ移民募集豫定數及之カ地方別募集配當表

八、募集ノ方法

移民取扱人前項ノ認可ヲ受ケタル後前項第三號及第五號乃至第八號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ豫メ外務大臣ノ認可ヲ受クヘシ、但シ地方別募集配當表ヲ變更スル場合ニ限リ之ヲ外務大臣及關係地方長官ニ届出ツヘシ

移民取扱人前二項ノ認可ヲ受ケタルトキハ該認可書ノ寫及之カ出願書類ノ寫ヲ添ヘ其ノ旨豫メ移民募集地ノ地方長官ニ届出ツヘシ、但シ第一項第二號ノ書類ハ之カ添附ヲ省略スルコトヲ得

第二十一條 移民取扱人又ハ代理人移民募集ノ目的ヲ以テ新聞紙ニ廣告文ヲ掲載シ又ハ印刷物ヲ配付セムトスルトキハ豫メ外務大臣ニ出願シテ認可ヲ受クヘシ

第二十二條 移民取扱人移民ノ募集ヲ爲スニ當リテハ自己所在地又ハ業務執行社員若クハ取締役ノ在留スル地方ヲ除クノ外代理人ヲシテ募集ノ期間其ノ募集ノ地ニ在留セシムルコトヲ要ス

第二十三條 移民保護法第十三條ノ契約書ニハ左ノ事項ヲ記

載スルコトヲ要ス

- 一、契約 期限
- 二、手 數 料
- 三、渡航及歸航費用ノ支辨方法
- 四、賃金及賃金ノ支拂方法
- 五、渡航地ニ於ケル周旋方法
- 六、移民ノ疾病其ノ他困難ノ場合ニ於ケル救助又ハ歸國ノ方法

移民取扱人ハ前項契約書ノ全文ニ移民渡航地ノ狀況書ヲ添附シ移民本籍地又ハ寄留地ノ地方長官ニ出願シテ認可ヲ受クヘシ

第二十四條 移民取扱人移民ニ關シテ別ニ他人ト契約ヲ爲シタルトキハ該契約書寫ヲ添附シ其ノ旨ヲ主タル營業所ヲ置ク地ノ地方長官ニ届出テ且其ノ移民ノ渡航地ヲ管轄スル在外帝國官廳ニ届出ツヘシ

移民取扱人前項ノ契約ニ基キ移民ヲ募集セムトスルトキハ前條ノ手續ヲ爲スニ當リ該契約書寫ヲ添附スヘシ
主タル營業所ヲ置ク地ノ地方長官必要ト認ムルトキハ第一項契約書ノ原本ノ提示ヲ命スルコトアルヘシ

第二十五條 當該官廳ニ於テ移民保護法第十三條ニ掲ケタル

契約書ヲ示スヘキコトヲ命シルタトハ移民取扱人及移民ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十六條

移民保護法第十四條ニ依リ手数料ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ移民取扱人ハ移民ノ渡航地及手数料ノ額ヲ記載シ移民本籍地又ハ寄留地ノ地方長官ニ出願スヘシ

第二十七條

移民取扱人移民保護法第十五條ノ二ニ依リ豫定シタル移民ノ出發期日ヲ移民ニ通知スルニハ書面ヲ以テスルコトヲ要ス

移民取扱人前項ノ通知ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ主タル營業所ヲ置ク地及移民出發港所在地ノ地方長官ニ届出ツヘシ

第二十八條

移民出發港所在地ノ地方長官必要ト認ムルトキハ其ノ地ニ代理人ヲ在留セシムヘキ旨ヲ移民取扱人ニ命スルコトアルヘシ

第二十九條

移民取扱人移民ヲ渡航セシムルトキハ移民ノ出發ト同時ニ移民ノ氏名ヲ其ノ渡航地ヲ管轄スル在外帝國官廳ニ届出ツヘシ、但シ契約移民ニ係ルトキハ移民保護法第十三條第一項ノ契約書寫ヲ添附スヘシ

第三十條

移民ノ身上ニ關スル異變其ノ他移民ニ關スル重要ナル事件ハ移民取扱人直ニ之ヲ外務大臣ニ届出ツヘシ
前項ノ場合ニ於テ移民渡航地ニ在留スル業務執行社員、取

締役又ハ代理人ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ所轄在外帝國官廳ニ届出ツヘシ

第三十一條

移民取扱人ハ附屬第二號書式ニ依リ毎月末日渡航者名簿ヲ調製シ翌月五日迄ニ又附屬第三號及第四號書式ニ依リ毎年末日歸國者名簿及死亡者名簿ヲ調製シ翌年三月三十一日迄ニ外務大臣ニ提出スヘシ

第三十二條

外務大臣必要ト認ムルトキハ別ニ定ムル移民取扱人同業組合規程ニ準據シ該組合ヲ設立スヘキコトヲ移民取扱人ニ命令ス

第三十三條

本章中移民取扱人ヨリ外務大臣ニ出願又ハ届出ヲ爲スヘキ場合及第三十一條ニ依リ名簿ヲ提出スヘキ場合ニ於テハ其ノ主タル營業所ヲ置ク地ノ地方長官ヲ經由スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ提出書類ノ謄本一通ヲ添へ原本ト共ニ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

第三章 保 證 金

第三十四條

移民保護法第十六條ニ掲ケタル保證金ハ之ヲ主タル營業所ヲ置ク地ノ地方長官ニ納付スヘシ

第三十五條

移民取扱人ノ納付スヘキ保證金ノ額及其ノ増減ハ外務大臣之ヲ定ム

第三十六條

移民取扱人ノ納付スヘキ保證金ハ國債證券ヲ以テ之ヲ代用スルコトヲ得
前項國債證券ノ價格ハ其ノ納付ヲ受クヘキ地方長官ノ定ムル所ニ依ル

本條證券ノ價格ニ異動アリタルトキハ地方長官ハ移民取扱人ヲシテ之ニ依リ生シタル不足額ヲ追納セシムヘシ

第三十七條

主タル營業所ヲ置ク地ノ地方長官ニ移民取扱人ノ保證金ノ増額ヲ追納セシメ又ハ其ノ缺損ヲ填補セシムル場合ニ於テ一箇月以内ノ猶豫ヲ與フルコトヲ得

第四章 移民運送船

第三十八條

移民保護法第二十條ノ二ニ依リ命令ヲ以テ定ムル地方ハ外務大臣之ヲ告示ス

第三十九條

移民保護法第二十條ノ二ニ依リ移民ノ員數ヲ算定スル場合ニ於テ十二年未滿ノ者ハ二人ヲ以テ一人ニ積算シ一年以下ノ者ハ之ヲ算入セス

第四十條

移民運送船ニ依リ移民ノ運送ヲ爲サムトスルトキハ左ノ事項ヲ詳記シ帝國運送業者ニ在リテハ其ノ本店所在地ノ地方長官ヲ經由シ外國運送業者ニ在リテハ帝國國內ニ在ル其ノ代表者所在地ノ地方長官ヲ經由シ外務大臣ニ出願シテ許可ヲ受クヘシ但シ船籍證書並ニ移民運送船備船ナルト

キハ備船契約書寫ヲ添附スルコトヲ要ス

一、商號アルモノハ其ノ商號

二、本店所在地

三、移民運送船

四、船長ノ國籍住所氏名

五、移民乘船港、到着港並ニ寄航港

六、移民乘船港ヨリ到着港ニ至ル迄ノ航海豫定日數

七、營業資本金額

八、運送スヘキ移民ノ豫定人員

九、當該移民運送船ノ乘組衛生職員ノ各職名及其ノ員數

同一運送業者カ同一航路ニ使用スル移民運送船ハ二隻以上

ヲ同一ノ願書ニ併記スルコトヲ得

外務大臣必要ト認ムルトキハ出願者ノ履歷書、商事會社ニ

在リテハ其ノ定款ヲ提出セシムルコトアルヘシ

第四十一條

第三十八條ニ依リ外務大臣ノ告示シタル地方ニ於ケル一定ノ港ヘ一箇年二回以上航海ヲ爲ス移民運送船ニ關シテハ二回以上ノ運送ニ付同時ニ前條ノ出願ヲ爲スコトヲ得但シ一箇年ヲ超ユル期間ニ亙ルコトヲ得ス

第四十二條

外務大臣移民運送船ニ依リ移民ノ運送ヲ許可シタルトキハ附屬第五號書式ニ依リ移民運送許可證ヲ下付ス

第四十三條

第四十條ノ許可ヲ受ケタル運送業者ニシテ同條第一項第三號及第五號ニ掲ケタル事項ヲ變更セムトスルトキハ同條ノ手續ニ準シ外務大臣ニ出願シテ許可ヲ受クヘシ前項運送業者第四十條第一項第一號、第二號、第四號、第七號及第八號ニ掲ケタル事項ヲ變更シタルトキハ遲滞ナク同條ノ手續ニ準シ之ヲ外務大臣ニ届出ツヘシ

第四十四條

移民運送船ニ依リ移民ノ運送ヲ爲サムトスル者第十二條ノ許可證ヲ下付セラレタルトキハ該許可證ヲ移民運送船船長ニ交付スヘシ
移民運送船船長ハ官廳ノ命アルトキハ何時ニテモ前項ノ許可證ヲ提示スヘシ

第四十五條

移民運送業者移民到着港ニ移民ノ運送ヲ了シタルトキハ遲滞ナク第四十條ノ手續ニ依リ運送許可證ヲ外務大臣ニ返納スヘシ第四十一條ノ出願ニ基キ下付セラレタル許可證ノ期間満了シタルトキ亦同シ

第四十六條

移民保護法第二十條ノ三第二項ニ依リ納付スヘキ保證金ノ額ハ外務大臣隨時之ヲ定ム
前項ノ保證金ハ第四十二條ノ許可證ヲ下付セラレタルトキ出願者ヨリ即時ニ之ヲ當該地方長官ニ納付スヘシ
本條ノ保證金ニ關シテハ第三十六條及第三十七條ノ規程ヲ

準用ス

第四十七條

移民運送船ニ依リ移民ノ運送貨ニ關シテハ移民運送業者ハ第四十條ノ出願ト同時ニ同條ノ手續ニ準シ豫メ外務大臣ニ出願シテ認可ヲ受クヘシ

第四十八條

運送業者第四十一條ノ出願ヲ爲ス場合ニ於テハ一定ノ期間ニ對スル運送貨ノ最高額ヲ定メ其ノ認可ヲ出願スルコトヲ得

運送業者前項ノ認可ヲ受ケタル後所定ノ期間内ニ運送貨最高額ノ増額ヲ爲サムトスルトキハ外務大臣ニ出願シテ増額ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第四十九條

前條ニ依リ運送貨最高額ノ認可ヲ受ケタル運送業者ハ運送貨ノ額ヲ定メ發航前五日迄ニ之ヲ移民乗船港所在地ノ地方長官ニ届出ツヘシ但シ運送貨ニ變更ナキ時ハ本條ノ届出ヲ要セス

第五十條

移民運送業者ハ移民運送船發航ノ日時ヲ豫メ移民乗船港所在地ノ地方長官ニ届出ツヘシ

第五章 雜則

第五十條ノ二

植民地ヲ經營スルコトヲ以テ主タル目的トスル者カ自己ノ經營スル植民地ニ入植セシムル爲移民ヲ募集セムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ毎年豫メ外務大臣ノ許可

ヲ受クヘシ

一、植民地ノ所在及植民地ノ狀況

二、植民地ノ經營方法

三、植民地經營ニ關シ植民地所在國官憲トノ間ニ契約アルモノ又ハ該官憲ノ許可又ハ承認ヲ得タルモノニ在リテ

ハ該契約書、許可書又ハ承認書ノ寫

四、募集移民ノ資格條件

五、入植移民ノ業務及其ノ收入又ハ所得ノ豫定額

六、移民ノ負擔トナルヘキ金額

七、入植移民ノ疾病其ノ他困難ノ場合ニ於ケル救助方法

八、移民トノ契約書案

九、其ノ年四月一日ヨリ翌年三月末日ニ至ル間ノ移民募集豫定數及之カ地方別募集配當表

一〇、募集方法及募集ニ關シ廣告ヲ爲シ又ハ印刷物ヲ配付セムトスルトキハ該廣告又ハ印刷物ノ文案

一一、經營者ノ資産、經營者カ法人ナルトキハ該法人ノ定款又ハ寄附行爲及登記簿謄本

植民地經營者カ前項ノ許可ヲ受ケタル後前項第四號及第六號乃至第十號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ豫メ外務大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ地方別募集配當表ヲ變更スル場合ニ

限り之ヲ外務大臣及關係地方長官ニ届出ツヘシ植民地經營者カ前二項ノ許可又ハ認可ヲ受ケタルトキハ該許可書又ハ認可書ノ寫及之カ出願書類ノ寫ヲ添ヘ其ノ旨豫メ移民募集地ノ地方長官ニ届出ツヘシ但シ第一項第三號ノ書類ハ之カ添附ヲ省略スルコトヲ得

第五十條ノ三

植民地經營者カ自己ノ經營スル植民地ニ入植セシムル爲移民ヲ募集スルニ當リ代理人ヲ定メ又ハ事務員ヲ使用シ及該代理人カ事務員ヲ使用スル場合ハ移民取扱人ノ代理人又ハ事務員ニ關スル規定ヲ準用ス

第五十一條

金錢貸付ヲ業トスル者ニシテ移民ニ對シ渡航費其ノ他渡航ノ準備ニ必要ナル金錢ヲ貸與セムトスルトキハ利率償還ノ方法其ノ他契約條件ノ要領ヲ記載シ其ノ所轄地方長官ニ出願シテ認可ヲ受クヘシ

第五十二條

前條ノ認可ヲ受ケタル金錢貸付業者ハ移民貸付金ニ付別ニ帳簿ヲ備ヘ置クコトヲ要ス

當該官吏ハ前項帳簿ノ検査ヲ行フコトアルヘシ此ノ場合ニ於テ金錢貸付業者ハ其ノ検査ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十三條

移民出發港ニ於テ移民宿泊業ヲ營ママトスル者ハ其ノ地ノ地方長官ニ出願シテ許可ヲ受クヘシ

第五十四條

移民取扱人ニ非スシテ移民乗船ニ關スル周旋ヲ

爲サムトスル者ハ移民乗船地ノ地方長官ニ出願シテ許可ヲ受クヘシ

第五十五條 前二條ノ許可及第五十一條ノ認可ノ出願手續ニ關スル規程竝ニ前二條ノ許可ヲ受ケタル者及第五十一條金錢貸付業者ノ取締ニ關スル規程ハ地方長官之ヲ定ム

第六章 罰則

第五十六條 第六條、第十條、第十三條第一項、第十四條、第十六條第一項、第十八條、第二十條第一項及第二項、第二十一條、第二十二條、第二十四條第一項及第二項、第二十五條、第二十七條、第三十條、第三十一條、第四十三條、第四十四條、第五十條ノ二第一項及第二項、第五十條ノ三又ハ第五十二條ニ違反シタル者ハ二十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十七條 第七條、第十一條第三項、第十五條、第十九條第二十條第三項、第二十九條、第四十五條、第四十九條又ハ第五十條及第五十條ノ二第三項ニ違反シタル者ハ十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十七條ノ二 法人ノ代表者又ハ其ノ他ノ從業者法人業務ニ關シ本令ニ違反シタルトキハ本令ニ規定シタル罰則ヲ法人ノ代表者ニ適用ス

附 則

第五十八條 本令中地方長官トアルハ東京府ニ在リテハ警視總監トス

第五十九條 本令ニ於テ在外帝國官廳ト稱スルハ帝國總領事館、領事館又ハ貿易事務館ヲ謂ヒ總領事館、領事館、貿易事務館ナキ地ニ於テハ帝國大使館及公使館ヲ謂フ

第六十條 本令ハ明治四十年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治二十九年外務省令第三號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

(様式略)

海外移住組合法

昭和二年三月三十日
法律第二十五號

第一條 海外移住組合ハ組合員又ハ組合員ト同一ノ家ニ在ル者ノ海外移住ヲ助成スルヲ以テ目的トス
組合ハ法人トシ其ノ組織ハ有限責任トス

第二條 組合ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ併セ行フ

- 一、組合員又ハ組合員ト同一ノ家ニ在ル者ノ海外移住ニ必要ナル資金ヲ組合員又ハ組合員ト同一ノ家ニ在ル者ニ貸付スルコト
- 二、組合員又ハ組合員ト同一ノ家ニ在ル者ノ海外移住ニ必

要ナル貯金ノ便宜ヲ組合員又ハ組合員ト同一ノ家ニ在ル者ニ得セシムルコト

三、組合員又ハ組合員ト同一ノ家ニ在ル者ノ海外移住ニ必要ナル土地建物其ノ他ノ物件ヲ取得シ又ハ借受ケ之ヲ組合員又ハ組合員ト同一ノ家ニ在ル者ニ讓渡シ又ハ利用セシムルコト

組合ハ前項ニ規定スルモノノ外、學校、病院、倉庫其ノ他組合員又ハ組合員ト同一ノ家ニ在ル者ノ海外移住ニ必要ナル事業ヲ行フコトヲ得

組合ハ第一項ノ規定ニ依リ取得シ又ハ借受ケタル土地建物其ノ他ノ物件ヲ組合員又ハ組合員ト同一ノ家ニ在ル者ニ讓渡シ又ハ利用セシムルニ至ル迄利用スルコトヲ得

第三條 組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員又ハ組合員ト同一ノ家ニ在ル者以外ニシテ海外ニ在住スル者ニ對シ前條第一項及第二項ノ事業ヲ行フコトヲ得

第四條 組合ハ一區域一個ニ限り之ヲ設立スルコトヲ得

第五條 組合員ハ組合ニ關スル一切ノ行爲ヲ代理スヘキ者ヲ定メ之ヲ組合ニ届出テタル後ニ非サレハ海外ニ移住スルコトヲ得ス

組合員前項ニ規定スル代理人ヲ組合ニ届出テスシテ海外ニ

移住シタルトキハ組合ノ會議及組合ノ爲ス通知又ハ催告ニ關スル一切ノ權利ヲ拋棄シタルモノト看做ス

前二項ニ規定スル代理人ハ當該組合ノ区域内ニ居住スル組合員タルコトヲ要ス

第六條 組合ノ理事及監事ハ地方長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ海外ニ移住スルコトヲ得ス

第七條 海外移住組合ハ共同シテ其ノ目的ヲ達スル爲海外移住組合聯合會ヲ設クルコトヲ得

聯合會ハ法人トシ其ノ組織ハ有限責任トス

第八條 聯合會ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ併セ行フ

- 一、海外移住組合ノ普及發達及聯絡ヲ圖ルコト
- 二、所屬海外移住組合ニ必要ナル資金ヲ貸付シ及貯金ノ便宜ヲ得セシムルコト
- 三、所屬海外移住組合カ組合員又ハ組合員ト同一ノ家ニ在ル者ニ讓渡シ又ハ利用セシムヘキ土地建物其ノ他ノ物件ヲ取得シ又ハ借受ケ之ヲ所屬海外移住組合ニ讓渡シ又ハ利用セシムルコト

第二條第二項、第三項及第三條ノ規定ハ聯合會ニ之ヲ準用ス

第九條 聯合會ハ全國ヲ通シテ一個トシ其ノ設立ハ主務大臣

ノ許可ヲ受クヘシ

第十條 海外移住組合以外ノ者ト雖モ定款ノ定ムル所ニ依リ聯合會ノ會員ト爲ルコトヲ得

第十一條 聯合會ノ理事及監事ハ會員タル海外移住組合ノ理事及監事ニ前條ノ規定ニ依リ會員ト爲リタル者ノ中ヨリ總會ニ於テ之ヲ選任スヘシ
但シ特別ノ事由アルトキハ其ノ他ノ者ヨリ選任スルコトヲ得

前項但書ノ規定ニ依ル選任ハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條 聯合會ハ主務大臣之ヲ監督ス

第十三條 第六條ノ規定ハ聯合會ノ理事及監事ニ之ヲ準用ス
但シ地方長官トアルハ主務大臣トス

第十四條 産業組合法第一條、第二條第一項、第四條第一項

第六條ノ二、第九條第二項、第十六條ノ六第二項、第四十二條、第四十六條ノ二、第四十六條ノ三、第四十九條、第五十八條、第六十八條、第七十六條乃至第七十七條、第七十九條、第八十條第一項、第八十一條但書及第八十二條乃至第九十二條ノ規定ヲ除クノ外産業組合法中産業組合ニ關スル規定ハ海外移住組合ニ同法中産業組合聯合會ニ關スル規定ハ海外移住組合聯合會ニ之ヲ準用ス但シ海外移住組合ト得ス

トヲ得ス

取扱ヒタル物件ノ數量、價格其ノ他事業ノ分量ニ對シ配當スヘキ剩餘金ニシテ出資ノ拂込ニ充テサルモノハ拂込ミタル出資額カ出資總額ノ二分ノ一ニ滿タサル場合ニ限り配當スヘキ剩餘金ノ二分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス
拂込ミタル出資額ニ對スル剩餘金配當ノ率ハ年六分ヲ超ユルコトヲ得ス

第七條 總代會ハ二百人以上ノ組合員ヲ有スル組合ニ非サレハ之ヲ設クルコトヲ得ス
總代會ヲ設ケムトスルトキハ定款ニ總代ノ員數、任期及選舉ニ關スル規定ヲ設クヘシ

第八條 理事及監事ハ定款ノ規定又ハ總會若ハ總代會ノ決議ニ依ルニ非サレハ給料、報酬又ハ賞與ヲ受クルコトヲ得ス

第九條 組合及聯合會ノ事業年度ハ曆年ニ依ル但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十條 登記ニ關スル届書又ハ組合原簿若ハ聯合會原簿ノ記載事項ノ變更ノ届書ニハ理事又ハ清算人署名捺印スヘシ
地方長官カ前項ノ届書又ハ組合原簿ヲ受理シタルトキハ之ニ受付ノ年月日ヲ記載スヘシ

第十一條 地方長官又ハ拓務大臣ニ組合原簿又ハ聯合會原簿

三八〇

聯合會ニ付テハ同法第八十一條ノ規定ニ依リ準用スル産業組合ニ關スル規定中地方長官トアルハ主務大臣トス

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (昭和二年四月廿五日ヲ同年五月一日ヨリ施行)

海外移住組合法施行規則

昭和二年四月三十日
內務省令 第二八號

第一條 組合ノ區域ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外道府縣ノ區域ニ依ル

第二條 組合ハ聯合會ノ設立許可ノ申請書ニハ定款ノ外事業方法書ヲ添附スヘシ

第三條 出資一口ノ金額ハ組合ニ在リテハ五十圓聯合會ニ在リテハ五百圓ヲ超ユルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四條 第一回拂込ノ金額ハ出資一口ノ金額ノ十分ノ一ヲ下ルコトヲ得ス

第五條 準備金ノ額ハ出資總額ヲ下ルコトヲ得ス

第六條 剩餘金ノ配當ハ取扱ヒタル物件ノ數量、價格其ノ他事業ノ分量又ハ拂込ミタル出資額ニ對スルノ外之ヲ爲スコ

ト提出スルトキハ其ノ記載事項ニ關スル監事ノ證明書其ノ記載事項ノ變更ノ届書ヲ提出スルトキハ其ノ變更ニ關スル監事ノ證明書ヲ添附スヘシ

第十二條 出資一口ノ金額ヲ減少シタル場合ニ於ケル登記ニ關スル届書ニハ産業組合法第四十條第二項ノ手續ヲ經タルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

前項ノ届書ニ異議ヲ述ヘタル債權者アリタル場合ニ於テハ之ニ辨濟ヲ爲シ又ハ相當ノ擔保ヲ供シタルコトヲ證スル書面ヲ併セテ添附スヘシ

第十三條 理事ハ總會又ハ總代會ヲ經タル後産業組合法第三十條第一項ニ掲ケタル書類ヲ組合ニ在リテハ地方長官ニ聯合會ニ在リテハ拓務大臣ニ遲滞ナク差出スヘシ

第十四條 組合又ハ聯合會ノ事業報告書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一、組合ニ在リテハ組合員ノ職業別ノ數並ニ出資口數ノ異動聯合會ニ在リテハ所屬組合ト海外移住組合法第十條ニ依ル會員ト區別シ其ノ數並ニ出資口數ノ異動
- 二、出資拂込ノ總額及剩餘金ヲ以テ出資ノ拂込ニ充テタルトキハ其ノ總額
- 三、損益ノ計算並ニ借入又ハ償還シタル金額及借入金ノ利

- 四、準備金及各種ノ積立金
- 五、總會又ハ總代會ノ決議
- 六、組合員又ハ組合員ト同一ノ家ニ在ル者ノ移住數
- 七、組合又ハ聯合會カ貸付シ又ハ償還ヲ受ケタル金額、人員及件數、受入又ハ拂戻シタル貯金額及人員並ニ貯金及貸付金ノ利率
- 八、組合又ハ聯合會カ取得シ又ハ借受ケタル海外移住ニ必要ナル土地建物其ノ他ノ物件ノ種目別ノ數量及價額
- 九、組合又ハ聯合會カ讓渡シ又ハ利用セシメタル土地、建物其ノ他ノ物件ノ種目別ノ數量及價額
- 一〇、組合又ハ聯合會カ海外移住組合法第二條第二項ノ事業ヲ行フトキノ其ノ狀況
- 一一、組合又ハ聯合會カ海外移住組合法第二條第三項ノ規定ニ依ル利用ヲ爲ストキノ狀況

第十五條

組合又ハ聯合會カ借入金ヲ爲サムトスルトキハ毎年總會又ハ總代會ニ於テ一事業年度ニ於ケル借入額及利率ノ最高限度ヲ議決スヘシ

前項ノ規定ハ組合又ハ聯合會カ一事業年度ニ於ケル一組合員(若ハ組合員ト同一ノ家ニ在ル者)又ハ一所属組合ニ對

シテ爲ス貸付額ノ最高限度ニ付之ヲ準用ス

理事ハ前二項ノ規定ニ依リ議決シタル事項ヲ組合ニ在リテハ地方長官ニ聯合會ニ在リテハ拓務大臣ニ遲滞ナク報告スヘシ

第十六條

理事ハ毎年度豫算ヲ調製シ年度開始ノ二月前迄ニ總會又ハ總代會ノ決議ヲ經ヘシ但シ初年度ノ豫算ニ付テハ設立許可ノ後二月後ニ總會又ハ總代會ノ議決ヲ經ヘシ

第十七條

理事ハ毎年度決算ヲ調製シ次ノ通常總會又ハ通常總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第十八條

豫算及決算書ハ總會又ハ總代會ノ決議又ハ承認ヲ經タル後組合ニ在リテハ地方長官ニ聯合會ニ在リテハ拓務大臣ニ遲滞ナク之ヲ報告スヘシ

第十九條

定款變更ノ認可申請書ニハ理由書及總會又ハ總代會ノ決議録ヲ添附スヘシ

前項ノ規定ハ海外移住組合法第十一條第二項ノ規定ニ依リ認可申請書ニ之ヲ準用ス

第二十條

理事又ハ監事ノ變更ノ届書ニハ其ノ變更力總會又ハ總代會ノ決議ニ依ル場合ニ在リテハ其ノ決議録其ノ他ノ

理事又ハ監事ノ證明書ヲ添附スヘシ

第二十一條

理事又ハ監事ノ海外移住許可申請書ニハ左ノ事

項ヲ記載シ渡航ノ日ヨリ二月以前ニ之ヲ提出スヘシ

- 一、移住地
- 二、移住期間
- 三、移住ノ理由

第二十二條

出資一口ノ金額ノ減少ノ認可申請書ニハ理由書總會又ハ總代會ノ決議録、財産目錄及貸借對照表ヲ添附スヘシ

第二十三條

合併ノ認可申請書ニハ理由書、總會ノ決議録、財産目錄、貸借對照表、合併契約書及合併後存続スル組合又ハ合併ニ依リテ設立スル組合ノ定款並ニ産業組合法第六十三條ノ二ノ場合ニ於テハ申請者カ同項ノ規定ニ依リ選任セラレタル者ナルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第二十四條

産業組合法第六十二條第一項第一號又ハ第四號ノ事由ニ因ル解散ノ届書ニハ其ノ事由ヲ記載シ解散ノ當時ニ於ケル監事ノ證明書ヲ添附スヘシ

第二十五條

總會ノ決議録、財産目錄及貸借對照表ヲ添附スヘシ

第二十六條

第二條ノ規定ハ清算人ノ選任及其ノ變更ノ届書ニ之ヲ準用ス

第二十七條

清算人ハ總會又ハ總代會ノ承認ヲ經タル後産業

組合法第七十一條ニ掲ケタル書類ヲ組合ニ在リテハ地方長官ニ聯合會ニ在リテハ拓務大臣ニ遲滞ナク差出スヘシ

第二十八條

清算終了ノ届書ニハ總會又ハ總代會ノ承認ヲ經タル決算報告書ヲ添附スヘシ

第二十九條

地方長官カ産業組合法第六十一條ノ規定ニ依リ處分ヲ行ヒタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ拓務大臣ニ報告スヘシ

附則

本令ハ海外移住組合法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス (昭和二年五月一日ヨリ施行)

移住教養所官制

昭和七年十一月十日勅令第三四三號

第一條 移住教養所ハ拓務大臣ノ管理ニ屬シ拓務大臣ノ指定シタル海外移住者ノ保護教養ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 移住教養所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長	專任二人	奏任
醫官	專任六人	判人
醫官補	專任四人	判人

第三條 所長ハ醫官ヲ以テ之ニ充ツ拓務大臣ノ指揮監督ヲ承

ケ所務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第四條 醫官及醫官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ海外移住者ノ衛生及診療ニ従事ス

第五條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第六條 移住教養所ノ名稱及位置ハ拓務大臣之ヲ定ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ昭和七年十二月三十一日ニ至ル迄ハ第二條ニ規定スル職員中醫官ハ專任一人、屬ハ專任四人、醫官補ハ專任二人トス
移民收容所官制ハ之ヲ廢止ス
本令施行ノ際現ニ移民收容所ノ醫官、屬又ハ醫官補タル者別ニ辭令ヲ發セラレサルトキハ各移住教養所ノ醫官、屬又ハ醫官補ニ同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス但シ文官任用ノ資格ニ關スル規定ノ摘要ヲ妨ケス

神戸移住教養所規則

昭和三年三月九日
官報 第三九二號

第一章 通 則

第一條 本所ニ收容スヘキ者ハ當分ノ内伯刺西爾合衆國ニ渡航スル移民トス

但シ收容力ニ餘裕アルトキハ伯刺西爾合衆國以外ノ國ニ渡航スル移民ヲ收容スルコトアルヘシ

前項ノ規定ニ依リ收容スヘキ者ハ特別ノ事由アル者ノ他既ニ旅券ノ下付又ハ渡航ノ許可ヲ受ケタル者ニ限ル

第二條 入所ヲ許可シタル者ニ對シテハ入所期間中無料收容ヲ爲スモノトス

第二章 入所及退所

第三條 本所ニ入所セムトスル者ハ第一號様式ニ依ル入所願ヲ提出スヘシ

第四條 移民ヲ入所セシメムトスルトキハ豫メ本所ニ出頭スヘキ日時ヲ本人又ハ代理人ニ通知ス
前項ノ通知ヲ受ケタル者ハ指定セラレタル日時ニ本所ニ出頭スヘシ

第五條 前條ノ規定ニ依リ出頭シタル者ニ對シテハ身體検査ヲ行ヒ移住目的國ニ入國スルニ必要ナル健康狀態ヲ有スト認メタル者ニ對シ入所ヲ許可ス但シ輕微ナル疾病ニ罹レル者ニシテ治療ノ見込確實ナリト認メタル者ハ之ヲ入所セシムルコトアルヘシ

第六條 秩序ヲ紊リ又ハ他人ニ迷惑ヲ及ホス虞アリト認メタル者ニ對シテハ入所ヲ許可セサルコトアルヘシ

第七條 入所ヲ許可シタル者ニ對シテハ入所期間中ノ室及座席ヲ指定ス

前項ノ室及座席ハ係員ノ許可ナクシテ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第八條 入所者ハ其ノ所持品ヲ入所期間中必要ナル手廻品ト然ラサル物品トニ區別シ係員ノ點檢ヲ受クヘシ入所者ハ入所中必要ナル手廻品ノミヲ室内ニ携帯スルコトヲ得入所中必要ナラサル物品ハ之ヲ船中ニ於テ必要ナルモノト然ラサルモノトニ區別シ第二號様式ニ依ル保管票ニ記入ノ上其ノ保管ヲ所長ニ願出ツルコトヲ得

前項ノ物品ハ收容力ニ餘裕ナキ場合又ハ所長ニ於テ不適當ト認メタル場合ハ其ノ携帯又ハ保管ヲ拒ムコトアルヘシ

保管スヘキ物品ハ之ヲ査閲シタル上保管ス但シ損害賠償ノ責ニ任セス

第九條 入所期間中ハ十日以内トス但シ所長ノ裁量ニ依リ特ニ之ヲ延長スルコトアルヘシ

第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ入所期間中ト雖モ之ヲ退所セシム

- 一、法定傳染病ニ罹リタル者
- 二、法定傳染病以外ノ疾病ノ爲本所ニ在ルヲ不適當ト認メ

タル者

三、移住シ得サル事情ヲ生シタル者

四、移住ヲ中止シタル者

五、其ノ他收容シ得サル事情ヲ生シタル者

前項第二號乃至第五號ニ該當スル者ト雖モ所長ノ裁量ニ依リ特ニ期間ヲ指定シ退所ヲ猶豫スルコトアルヘシ

第十一條 入所者中途ニ於テ退所セムトスルトキハ其ノ旨係員ニ申出ツヘシ

第十二條 乗船ノ爲退所スヘキ日時ハ豫メ之ヲ告示ス

入所者ハ所定ノ時刻迄ニ手廻品ヲ取纏メ係員ノ指揮ニ從ヒ退所スヘシ

第三章 衛生及救護

第十三條 入所者ニ對シテハ移住ニ必要ナル疾病豫防ノ處置ヲ行フ

第十四條 入所中身體ニ異常ヲ生シ診療ヲ希望スル者ハ其ノ旨係員ニ申出ツヘシ

第十五條 入所者ハ其ノ衣服又ハ所持品ニシテ不潔ナルモノニ付係員ノ指示ニ從ヒ之ヲ洗濯又ハ消毒ヲ受クヘシ

第十六條 入所者ニ對シテハ移住地ノ言語、宗教、地理、風俗、習慣、農業事情等ニ關シ必要ナル知識ヲ授ケ其ノ他移

住ニ必要ナル教養ヲ行フ

第十七條 前條ノ教養ニ關スル講習科目及時間表ハ別ニ之ヲ定ム講習ノ爲使用スル學科用品ハ其ノ全部又ハ一部ヲ貸付シ又ハ給與スルコトアルヘシ

第十八條 講習ハ必要ニ應シ男女、年齢等ニ依リ適宜人員ヲ區分シ之ヲ行フ

第十九條 第五條ノ身體検査、第十三條ノ疾病豫防ノ處置及第十六條ノ教養ハ入所セル移民ニ對シテモ餘裕ノ存スル範圍内ニ於テ之ヲ行フ

第六條、第十七條、第十八條、第二十條及第二十六條ノ規定ハ前項ノ移民ニ之ヲ準用ス

第四章 規

律

第二十條 入所者ハ所内ノ規律ヲ遵守シ係員ノ指揮ニ從フハ勿論秩序ヲ重シ飲酒、放歌、喧嘩、口論、其ノ他苟モ他人ニ迷惑ヲ及ホスカ如キ行爲ヲ爲スヘカラス

第二十一條 入所者ハ所内ノ清潔ヲ重シ寢具、食器、其ノ他ノ物品ヲ汚損セサル様之カ取扱ニ注意スヘシ

第二十二條 入所者洗濯物ノ洗滌又ハ乾燥ヲ爲サムトスルトキハ所定ノ場所ニ於テ係員ノ指揮ニ從ヒ之ヲ爲スヘシ

第二十三條 入所者ハ其ノ手廻品ヲ亂雜ニ亘ラサル様整頓シ

且各自之カ紛失、盜難等ノ豫防ニ注意スヘシ

第二十四條 入所者ノ起床、食事、入浴、就寢等ハ所定ノ時刻及順序ニ依リ係員ノ指揮ニ從ヒ之ヲ爲スヘシ

第二十五條 入所者外出セムトスルトキハ其ノ旨届出ツヘシ特別ノ事由アル場合ノ外門限外ノ歸所又ハ外泊ヲ許サス

第二十六條 所内ノ規律ヲ紊シ係員ノ指揮ニ從ハス其ノ他不都合ナル行爲アリタル者ハ退出ヲ命スルコトアルヘシ
(様式略)

第十類
雜

褒章條例

明治十四年十二月七日
太政官布告第六三號

第一條 凡ソ自己ノ危難ヲ顧ミス人命ヲ救助シタル者又ハ孝子順孫節婦義僕ノ類ニシテ德行卓絶ナル者又ハ實業ニ精勵シ衆民ノ模範タルヘキ者又ハ學術上技藝上ノ發明改良著述教育衛生慈善防疫ノ事業、學校病院ノ建設、道路河渠堤防橋梁ノ修築、田野ノ墾闢、森林ノ栽培、水産ノ繁殖、農商工業ノ發達ニ關シ公衆ノ利益ヲ興シ成績著明ナル者又ハ合同ノ事務ニ勤勉シ勞効顯著ナル者又ハ公益ノ爲私財ヲ寄附シ功績顯著ナル者ヲ表彰スル爲左ノ四種ノ褒章ヲ定ム

紅綬褒章

右自己ノ危難ヲ顧ミス人命ヲ救助シタル者ニ賜フモノトス

綠綬褒章

右孝子順孫節婦義僕ノ類ニシテ德行卓絶ナル者又ハ實業ニ精勵シ衆民ノ模範タルヘキ者ニ賜フモノトス

藍綬褒章

右學術技藝上ノ發明、改良、著述、教育衛生慈善防疫ノ事業、學校病院ノ建設、道路河渠、堤防橋梁ノ修築、田野ノ墾闢、森林ノ栽培、水産ノ繁殖、農商工業ノ發達ニ關シ公

衆ノ利益ヲ興シ成績顯著ナル者、又ハ合同ノ事務ニ勤勉シ勞効顯著ナル者ニ賜フモノトス

紺綬褒章

右公益ノ爲私財ヲ寄附シ功績顯著ナル者ニ賜フモノトス

第二條

本條例ニ依リ表彰セラルヘキ者團體ナルトキハ褒狀ヲ賜フ

第三條

己ニ褒章ヲ賜ハリタルモノ再度以上同様ノ實行アリテ褒賞ヲ賜フヘキトキハ其ノ都度飾版一箇ヲ賜與シ其ノ章綬ニ附加セシメ以テ標識トス

前項ノ飾版五個以上ニ達シタルトキハ五箇毎ニ別種ノ飾版一箇ヲ引替ヘ賜與ス

第四條

褒章ハ本人ニ限り終身之ヲ佩用スルコトヲ得

第五條

第一條ノ規定ニ依リ褒章ヲ賜フヘキ者ニハ褒章ト金銀木杯又ハ金圓トヲ併テ賜フコトアルヘシ

第六條

第一條ノ規定ニ準スヘキ奇特ノ行爲アリタル者ニハ金銀木杯金圓又ハ褒狀ヲ賜フコトアルヘシ

第七條

本條例ニ依リ表彰セラルヘキ者死亡シタルトキハ金銀木杯、金圓又ハ褒狀ヲ其ノ遺族ニ賜ヒ之ヲ追賞ス

第八條

第六條ニ依ル行賞ニシテ金銀杯ノ賜與、二十圓ヲ超ユル金圓ノ賜與及千圓以上ノ寄附ニ對スル褒狀ノ賜與ハ賞

勳局總裁之ヲ專行ス

第六條ニ依ル行賞ニシテ木杯ノ賜與、二十圓以下ノ金圓ノ賜與及千圓未満ノ寄附ニ對スル褒狀ノ賜與ハ地方長官之ヲ專行ス

第九條 本條例中地方長官ニ屬スル職務ハ朝鮮、臺灣、關東州及南滿洲鐵道附屬地、樺太、南洋群島並ニ外國ニ於テハ各朝鮮總督、臺灣總督、關東長官、樺太廳長官、南洋廳長官、領事館之ヲ行フ

褒章條例取扱手續

明治二十七年一月六日
勳令第一號

第一條 褒章條例ニ依リ褒章ヲ賜フヘキ者アルトキハ地方長官主務大臣ニ具申シ主務大臣ハ其ノ當否ヲ審査シ賞勳局總裁ヘ申牒スヘシ

第二條 賞勳局總裁ハ申牒書ヲ覆覽シ褒章ヲ賜フヘキモノト認ムルトキハ奏請裁可ヲ得在東京ノ者ニハ之ヲ直授シ其ノ他ノ者ニハ主務大臣ヲ經由シテ之ヲ傳達スヘシ

第三條 外國人ニ褒章ヲ賜フヘキトキハ主務大臣外務大臣ト連署シテ之ヲ申牒スヘシ授與ノトキハ外務大臣ヲ經由シテ之ヲ傳達ス其ノ公私備ニ係ル者ハ第二條ニ依ル

第四條 褒章條例第八條第一項ニ依リ賞勳局總裁ノ專行ニ屬スル行賞ニ該ル者アルトキハ地方長官、主務大臣ニ具申シ主務大臣其ノ當否ヲ審査シ賞勳局總裁ヘ申牒スヘシ授與ノトキハ主務大臣ヲ經由シテ之ヲ傳達ス

第五條 行賞ニ關シニ以上ノ地方長官具申又ハ專行スヘキ場合ニ於テハ關係地方長官ノ協議ニ依リ其ノ一地方長官之ヲ行フコトヲ得

第六條 外國人ニ對スル金銀木杯、金圓又ハ褒狀ノ賜與ハ內國人ノ例ニ依ル但シ帝室ノ貴賓又ハ外國使臣ニ對スル賜與ハ外務大臣賞勳局總裁ヘ申牒スヘシ授與ノトキハ外務大臣ヲ經由シテ之ヲ傳達ス

第七條 褒章條例ニ依リ表彰セラルヘキ者具申後行賞前ニ於テ死亡シ又ハ罰金以上ノ刑ニ該ル罰ヲ犯シタル者ナルコトヲ知リタル時ハ地方長官ハ速ニ其ノ旨主務大臣ニ申報シ主務大臣ハ之ヲ賞勳局總裁ニ通知スヘシ

第八條 本令中主務大臣ノ職務ハ朝鮮、臺灣、關東州及南滿洲鐵道附屬地ニ在リテハ各朝鮮總督、臺灣總督、關東長官之ヲ行ヒ地方長官ノ職務ハ朝鮮、臺灣、關東州及南滿洲鐵道附屬地、樺太、南洋群島並ニ外國ニ在リテハ各朝鮮總督、臺灣總督、關東長官、樺太廳長官、南洋廳長官、領事館之

ヲ行フ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
明治十六年太政官達第十七號金銀木杯金圓賜與手續及明治四十四年閣令十三號ハ之ヲ廢止ス

預金部普通地方資金融通規則 (抄録)

明治七年十二月六日
大藏省令 第三〇號

第一章 總 則

第一條 預金部普通地方資金ノ融通ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依ルモノトス

第二條 預金部普通地方資金ハ之ヲ左ノ十一種トス

一、社會事業資金

第二章 融 通 先

第三條 本資金ハ左ノ各號ノ者ニ限り之ヲ融通スルコトヲ得

一、社會事業資金ニ在リテハ

イ、道、府縣、市町村、市町村組合及町村組

ロ、住宅組合

ハ、産業組合

ニ、營利ヲ目的トセサル法人

第四條 本資金ノ融通ヲ受クル者ハ左ノ各號ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

一、財務ノ整理良好ナルコト

二、事業ノ計畫及償還ノ見込確實ナルコト

第三章 資金ノ用途

第五條 本資金ハ左ノ各號ノ用途ニ對シ之ヲ融通スルモノトス

一、社會事業資金ニ在リテハ

イ、住宅ノ建設費

ロ、公益質屋費

ハ、公益市場費

ニ、簡易宿泊所費

ホ、託兒所費

ヘ、職業紹介所費

ト、其ノ他ノ社會事業費

第四章 資金ノ借入申込

第六條 地方公共團體本資金ノ借入ヲ爲サムトスルトキハ借入ヲ要スル年度ノ前年度三月三十一日迄ニ預金部資金借入

申込書(第一號様式)ヲ第二條第一號及第二號ノ資金ニ在
リテハ大藏大臣及内務大臣ニ、第三號ノ資金ニ在リテハ大
藏大臣及農林大臣ニ提出スヘシ

東京市、京都市、大阪市、横濱市、神戸市及名古屋市(以
下六大都市ト稱ス)以外ノ市町村、市町村組合又ハ町村組
合ノ提出スル前項ノ預金部資金借入申込書ニシテ大藏大臣
ニ提出スルモノニ在リテハ預金部支部ヲ經由シ、内務大臣
又ハ農林大臣ニ提出スルモノニ在リテハ地方長官ヲ經由ス
ヘシ

第五章 資金ノ融通

第一節 總 則

第十一條 地方公共團體ニ對スル資金ノ融通ハ直接預金部ニ
於テ之カ取扱ヲ爲スモノトス

第十二條 地方公共團體ニ對スル預金部資金ノ融通ハ當該地
方債證券ノ引受又ハ貸付ノ形式ニ依ルモノトス

第十三條 前條ノ規定ニ依ル地方債證券、債券又ハ貸付金ノ
償還期限ハ五年以内ノ据置期間ヲ併セ二十年以内トス但シ
資金融通ノ目的タル事業ノ種類其ノ他ノ事由ニ依リ特ニ必
要アリト認ムル場合ニ於テハ五年以内ノ据置期間ヲ併セ三
十年以内ト爲スコトアルヘシ

第六章 償還及利子拂

第二十四條 道、府縣、六大都市、日本勸業銀行、農工銀行
北海道拓植銀行、日本興業銀行又ハ産業組合中央金庫其ノ
融通ヲ受ケタル預金部資金ノ元金ノ償還又ハ利子ノ支拂ヲ
爲サムトスルトキハ日本銀行本店ニ對シ預金部資金元利金
拂込内譯書(第八號様式)ヲ添ヘテ送金シ預金部ニ之ニ關
スル預金部資金元利金支拂計算書(第九號様式)ヲ送付ス
ヘシ

第二十六條 地方公共團體ニ於テ融通ヲ受ケタル預金部資金
ノ繰上償還ヲ爲サムトスルトキハ豫メ其ノ事由ヲ具シ變更
償還年次表ヲ添ヘ預金部ノ承認ヲ受クヘシ但シ六大都市以
外ノ市町村、市町村組合及町村組合ニ在リテハ預金部支部
ノ承認ヲ受クヘシ

前項ノ繰上償還期日ハ最近ノ元利金支拂期日トス但シ特別
ノ事情アル場合又ハ金額繰上償還ノ場合ニ於テハ豫メ期日
ヲ定メ承認ヲ受クヘシ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二節 地方公共團體ニ對スル資金ノ融通

第十六條 地方公共團體第六條ノ規定ニ依ル預金部資金ノ借
入申込ニ對シ資金割當ノ通知ヲ受ケタル場合ニ於テ現金ノ
交付ヲ受ケムトスルトキハ預金部資金交付申請書(第三號
様式)ニ起債決議書寫、起債許可書寫及償還年次表ヲ添ヘ
道府縣又ハ六大都市ニ在リテハ預金部ニ、六大都市以外ノ
市町村、市町村組合又ハ町村組合ニ在リテハ預金部支部ニ
之ヲ提出スヘシ但シ資金ノ交付ヲ受クヘキ期日ハ預金部資
金交付申請書發送ノ日ヨリ二十日以上ノ餘日ヲ存スルコト
ヲ要ス

第十七條 地方公共團體日本銀行(本店、支店又ハ代理店ヲ
含ム以下同シ)ヨリ現金ノ交付ヲ受ケタルトキハ之ト引換
ニ地方債證券(第四號様式)又ハ借用證書(第五號様式)
ヲ日本銀行當該店ニ提出スヘシ

前項ニ依リ地方公共團體カ日本銀行代理店ニ地方債證券又
ハ借用證書ヲ提出スル場合ニ於テハ之カ送付書ヲ添付スヘ
シ

第十八條 道、府縣又ハ六大都市カ轉貸ノ爲交付ヲ受ケタル
預金部資金ノ貸付ニ付テハ第二十條乃至第二十三條ノ規定
ヲ準用ス

簡易生命保險積立金運用規則

大正六年七月十七日
勅令第六八號

第一條 簡易生命保險特別會計法ニ依ル積立金ハ選信大臣之
ヲ管理スヘシ

第二條 積立金ハ簡易生命保險法第二十六條ノ規定ニ依リ保
險契約者ニ貸付ヲ爲ス場合ヲ除クノ外簡易生命保險積立金
運用委員會ニ諮問シ公共ノ利益ノ爲ニ之ヲ運用スヘシ

第三條 所管大臣ハ毎年度積立金ノ運用ニ關シ必要ナル計畫
ヲ定メ豫メ簡易生命保險積立金運用委員會ニ附議スヘシ其
ノ豫定ノ計畫ヲ變更スルトキ亦同シ

第四條 積立金ニシテ放資ニ至ラサルモノハ一時之ヲ大藏省
預金部又ハ銀行ニ預入シ其ノ他有利且確實ナル有價證券ヲ
以テ之ヲ保有スルコトヲ得

第五條 所管大臣ハ部下ノ官吏ニ命シテ積立金ノ出納ヲ執行
セシムルコトヲ得

第六條 積立金ノ出納ニ關スル手續ハ所管大臣大藏大臣ニ協
議シテ之ヲ定ムヘシ

第七條 簡易生命保險積立金運用委員會ハ選信大臣ノ監督ニ

屬シ會長一人委員若干人ヲ以テ之ヲ組織ス

第八條 會長ハ選信大臣ヲ以テ之ニ充ツ
會長ハ會務ヲ總理ス

委員ハ選信大臣ノ奏請ニ依リ各廳高等官及學識經驗アル者
ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第九條 簡易生命保險積立金運用委員會ニ幹事ヲ置ク選信大
臣ノ奏請ニ依リ選信部内ノ高等官ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ
命ス

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第十條 簡易生命保險積立金運用委員會ニ書記ヲ置ク選信部
内ノ判任官ノ中ヨリ選信大臣之ヲ命ス
書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

簡易生命保險積立金貸付規則

大正八年八月十九日
可信省令 第七四號

第一條 簡易生命保險特別會計法ニ依ル積立金ハ簡易生命保
險積立金運用規則第二條ノ規定ニ基キ公共團體又ハ營利ヲ
目的トセサル法人若ハ組合ニ對シ本規則ノ定ムル所ニ依リ
貸付ヲ爲ス

第二條 積立金ノ貸付ハ年賦償還貸付、半年賦償還貸付及定
期償還貸付トス

第三條 年賦償還貸付及半年賦償還貸付ニ在リテハ元金ト利
息トヲ併セテ之ヲ計算シ毎期同一ノ金額ヲ償還セシム
貸付金ノ年賦及半年賦償還ニ付テハ五年間ノ据置期間ヲ設
クルコトヲ得但シ其ノ期間内ノ利息ハ此ノ限ニ在ラス
年賦償還貸付及半年賦償還貸付ノ貸付期間ハ前項ノ据置期
間ヲ除キ二十五年内トス

第四條 定期償還貸付ニ在リテハ一回又ハ數回ニ元金ヲ償還
セシム

第五條 年賦償還貸付及半年賦償還貸付ニシテ据置期間ヲ設
ケタルモノニ在リテハ契約ノ定ムル所ニ依リ其ノ期間中ニ
於テ貸付後一年内ヲ限り貸付金ノ分割交付ヲ爲スコトヲ得
前項ノ規定ハ定期償還貸付ニ付之ヲ準用ス

第六條 地方自治團體ニ非サル者ニ積立金ノ貸付ヲ爲ス場合
ニハ借主ヲシテ擔保ヲ提供シ又ハ保證人ヲ立テシムルコト
アルヘシ

第七條 積立金ヲ借入レムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル
簡易生命保險積立金借入申込書正副二通ニ記名調印ノ上其

ノ主タル事務所ノ所在地ヲ管轄スル選信局ヲ經由シテ之ヲ
選信大臣ニ提出スヘシ

一、金額

二、目的

三、償還方法

四、完済期限

五、借主ノ主タル事務所

貸付金ノ受領時期ニ在リテハ其ノ分別金額トモ
込書ニ附記スヘシ

第八條 前條ノ借入申込書ニハ借入ノ目的タル事業ノ計畫、
豫算、費用調達方法、債務償還資源及借主ノ當該年度ノ歳
入歳出豫算、最近年度ノ決算ノ大要ヲ記載シタル書類並ニ
左ノ區別ニ依ル書類各二通ヲ添附スヘシ

一、地方自治團體ニ在リテハ起債決議書及組合規約アルモ
ノハ其ノ規約ノ謄本

二、公共組合ニ在リテハ定款又ハ規約、起債決議書及最近
年度事業報告書ノ謄本

三、前各號以外ノ法人又ハ組合ニ在リテハ定款又ハ規約及
最近年度事業報告書ノ謄本、貸借對照表及財産目錄

起債ニ關シ監督官廳ノ許可ヲ要スルモノハ許可書ノ謄本ヲ

添附スヘシ但シ許可申請中ノモノニ在リテハ許可セラレタ
ルトキ速ニ之ヲ簡易保險局ニ送付スヘシ

神戸労働保險組合規約

昭和七年十一月一日
成立

第一章 總 則

第一條 本組合ハ神戸労働保險組合ト稱ス

第二條 本組合ハ神戸市又ハ其ノ附近ニ於テ労働ニ從事スル
者及其ノ雇傭主ヲ以テ組織ス

第三條 本組合ハ労働者タル組合員ノ負傷、疾病、死亡及失
業ノ場合ニ於ケル共済互助ヲ以テ目的トス

第四條 本組合ハ事務所ヲ神戸市湊東區多聞通二丁目二十三
番地ニ置キ出張所ヲ神戸市立労働紹介所内ニ置ク

第二章 組 合 員

第五條 組合員ヲ左ノ三種トス

一、正 組 合 員

二、準 組 合 員

三、特別組合員

第六條 神戸市立労働紹介所（以下紹介所ト稱ス）ノ紹介ニ

依ル業務又ハ組合ノ定ムル業務ニ就ク者ヲ準組合員ト爲ス但シ勞働ニ適セサル者及健康著ク不良ナル者ハ此ノ限ニ在ラス

組合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ準組合員ノ加入ニ付前項ノ外更ニ制限ヲ設クルコトアルヘシ

第七條 準組合員五日ヲ超エサル期間毎ニ前條ノ業務ニ就キ其ノ就業日數五日ニ及ヒタルトキハ正組合員ト爲ス
組合ハ必要ノ場合期間ヲ定メ又ハ特ニ定ムル範圍ニ付前項ニ依ル正組合員ト爲スヘキ條件ヲ延長シ又ハ縮少スルコトヲ得

第八條 失業者救済ノ目的ヲ以テ勞働者ヲ使用スル事業又ハ請負業者ニ依リテ爲サル事業ニ使用セラルル者ヲ準組合員又ハ正組合員(以下組合員ト稱ス)ト爲シタル場合豫告ヲ以テ定メタルトキハ其ノ事業ニ使用セラレサルニ至リタル日ヲ以テ組合員ノ資格ヲ停止シ又ハ喪失セシムルコトヲ得

第九條 紹介所ノ紹介ニ依リ又ハ組合ト約定シ組合員ヲ履傭スル者ヲ特別組合員ト爲ス
特別組合員ハ履傭スヘキ組合員ノ業務上ノ事故ニ因ル保險給付ニ關シ組合ト締結セル契約ノ種別ニ依リ左ノ三種トス

六、第三十三條ニ依リ打切療養料ノ支給ヲ受ケタルトキ

正組合員前項第三號ノ規定ニ依リ資格ヲ喪失シタル場合ニ於テ治療給付期限滿了ノ日ヨリ十日以内ニ勞働力回復シ且傷病治癒シタルトキハ其ノ資格ヲ復活セシムルコトヲ得

第十一條 組合員左ノ各號ノ一ニ該當シタルトキハ除名ス

- 一、第十四條ノ義務ヲ履行セザルトキ
- 二、組合ノ事業ヲ妨クル行爲アリタルトキ
- 三、不法ナル行爲ニ依リ組合ニ迷惑ヲ及ボシタルトキ
- 四、詐欺行爲ニ依リ保險給付ヲ受ケ又ハ受ケムトシタルトキ
- 五、就業ニ關シ紹介所又ハ組合ノ指示ニ從ハス勞働ノ意志ナキモノト認ムルトキ

第十二條 第六條但書ノ規定ニ依リ組合員タルヲ得サル者ヲ其ノ事實ヲ知ラス組合員トナシタルトキハ其ノ事實ヲ發見シタル日ヲ以テ組合員ノ資格ヲ喪失セシムルコトヲ得

第三章 經費及會計

第十三條 本組合ノ經費ハ掛金、補助金、寄附金及雜收入ヲ以テ之ニ充ツ

第十四條 組合員ハ紹介所ノ紹介ニ依ル義務又ハ組合ノ定ムル業務ニ就キタルトキハ一日ニ付金五錢ノ掛金ヲ組合ニ納ムルモノトス但シ其ノ日ノ賃金六十五錢ニ滿タサルトキハ

一、甲種特別組合員 勞働者災害扶助法ノ適用事業主ニシテ甲種保險給付ノ契約ヲ爲シ地方長官ノ許可ヲ得タルモノ

二、乙種特別組合員 災害扶助責任保險法ノ適用事業主ニシテ乙種保險給付ノ契約ヲ爲シ地方長官ノ許可ヲ得タルモノ

三、丙種特別組合員 前二號以外ノモノ

特別組合員ハ第十五條ノ掛金ヲ納ムルニ依リ其ノ資格ヲ生シ又之ヲ保有ス

第十條 組合員左ノ各號ノ一ニ該當シタルトキハ其ノ翌日ヨリ資格ヲ喪失ス

- 一、死亡シタルトキ
- 二、勞働力ヲ失ヒタルトキ但シ治療給付ヲ受クル者又ハ一時勞働力ヲ失ヒタルモノ十日以内ニ回復スヘキモノハ此ノ限ニ在ラス
- 三、治療給付期限滿了シ勞働力回復セザルトキ
- 四、引續キ十日間紹介所又ハ指定ノ就業場ニ出頭セザルトキ但シ組合員豫メ組合ニ届出テ承認ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 五、脱退ノ届出ヲ爲シタルトキ

掛金ヲ要セス

第十五條 特別組合員紹介所ノ紹介ニ依リ又ハ組合員ト約定シ組合員ヲ履傭シタルトキハ一人一日ニ付左ノ掛金ヲ組合ニ納ムルモノトス

金 七 錢

一、甲種特別組合員 金 五 錢

二、乙種及丙種特別組合員 金 五 錢

危險率高キ事業ニ在リテハ前項ノ掛金ヲ増額スルコトアルヘシ

第十六條 既納ノ掛金ハ第十七條ノ規定ニ依ル外拂戻ヲ爲サス

第十七條 正組合員一ヶ月間保險給付ヲ受ケサルトキハ其ノ月ノ掛金ニ對シ左記各號ノ割合ニ依リ割戻金ヲ支拂フ

- 一、十一日分以上二十日分以下ノ掛金ニ對シ十分ノ六
- 二、二十一日分以上ノ掛金ニ對シ十分ノ八

正組合員三ヶ月間保險給付ヲ受ケス且其ノ期間ニ六十日分以上ノ掛金ヲ納メタルトキハ其ノ期間ノ掛金總高ヨリ前項ノ規定ニ依リ支拂フヘキ割戻金高ヲ控除シタル殘額ノ三分ノ一ノ再割戻金ヲ支拂フ

前二項ノ割戻金ハ之ヲ受クル者ノ請求ニ依リ支拂フ但シ割戻金ヲ爲サルヘキ月ノ末日後六十日以内ニ請求セザルトキハ支拂フ爲サス

第十八條 組合ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ヲ以テ終ル

第十九條 各年度決算ニ於テ剩餘金ヲ生シタルトキハ準備金トシテ積立ツルモノトス

準備金ヲ使用セムトスルトキハ其ノ目的及金額ニ付理事會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

第二十條 組合ハ毎年一回收支決算ヲ組合員ニ報告ス

第二十一條 組合ノ資産ハ理事會ノ議決ヲ經タル銀行、郵便局又ハ信託會社ニ預入保管ス

第四章 保險給付

第一節 業務災害保險給付

第二十二條 組合員事業主カ特別組合員ノ掛金ヲ負擔スヘキ業務(以下業務ト稱ス)ニ付負傷シ若ハ疾病ニ罹リ又ハ之ニ因リ死亡シタルトキハ本節ノ規定ニ依リ左ニ掲クル保險給付ヲ爲ス但シ給付ヲ受クヘキ者同一ノ原因ニ付損害賠償若ハ其ノ他ノ給與ヲ受ケタルトキハ其ノ限度ニ於テ保險給付ヲ爲ササルコトアルヘシ

- 一、治療又ハ治療費
- 二、休養 手當
- 三、癱疾保險金

四、死亡保險金

五、葬 祭 料

六、打切療養料

七、歸 郷 旅 費

前項ノ疾病トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ謂フ

一、負傷ニ因リ發シタル疾病

二、異物ニ因ル眼疾患、重量物ノ取扱ニ因ル髓鞘炎、其ノ他災害ニ因ル疾病

三、毒性、劇性又ハ刺激性物品ニ因ル中毒症又ハ皮膚若ハ粘膜ノ障碍

四、氣壓ノ急激ナル變化ニ因ル疾病

五、有害ナル光線ニ因ル眼疾患

六、其ノ他組合ノ定ムル疾病

第二十三條 前條第一項第一號乃至第四號ノ保險給付ハ給付事故ノ發生セル業務ノ事業主タル特別組合員ノ種別ニ依リ

甲種、乙種、丙種ノ三種トス

第二十四條 組合員業務上負傷シ若ハ疾病ニ罹リ治療ヲ要スルトキハ同一ノ傷病ニ付左記治療給付種別ノ定ムル處ニ依リ

組合指定ノ醫師ニ付治療ヲ給付ス但シ治療ヲ給付セル傷病ニ基因シ發生セル疾病ハ同一ノ傷病ト看做ス

直接治療費ヲ支拂フコト困難ナルトキ

二、組合ノ承認ヲ經テ組合指定醫師以外ノ診療ヲ受ケ組合

ニ於テ直接治療費ヲ支拂フコト困難ナルトキ

三、組合指定醫師ニ依リ治療ヲ給付スルコト適當ナラサル

トキ

四、其ノ他組合ニ於テ必要ト認メタルトキ

第二十六條 前二條ノ規定ニ依リ治療給付又ハ治療費ノ支給

ヲ受クル者療養ノ爲勞務ニ服スル能ハサルニ依リ賃金ヲ受

ケサルトキハ一日ニ付金六十錢ノ休養手當ヲ支給ス但シ乙

種治療給付ヲ受クル者ニ在リテハ七日ヲ超ユル休業ニ付テ

ハ之ヲ支給セス準組合員ニ在リテハ賃金ヲ受ケサルニ至リ

タル日ヨリ起算シ三日ハ之ヲ支給セス

病院ニ收容治療給付ヲ受クル者ニシテ本人ノ收入ニ依リ生

計ヲ維持スル者無キトキハ休養手當ハ一日ニ付金二十錢ト

ス

第二十七條 甲種又ハ丙種治療給付ヲ受クル者負傷又ハ疾病

治療シタル時ニ於テ身體ニ障碍ヲ存スル時ハ其ノ保險給付

種別ニ從ヒ別表(身體障害等級及癱疾保險金表)ノ區別ニ

依リ甲種又ハ丙種癱疾保險金ヲ支給ス

別表ノ身體障害二以上ヲ存スルトキハ重キ身體障害ノ該當

一、甲種治療給付 負傷又ハ疾病治療ニ至ル迄

二、乙種治療給付 治療ニ要スル費用拾圓ヲ超エサル範圍

三、丙種治療給付 七十日ヲ超エサル期間

前項ノ治療給付ノ範圍左ノ如シ

一、診 察

二、藥劑又ハ治療材料ノ支給

三、處置、手術其ノ他ノ治療

四、看 護

五、移 送

前項第四號ノ看護ハ被給付者ニ於テ適當ナル看護人無キト

キニ限り給付ス

第二項第五號ノ移送ハ傷病發生ノ場所ヨリ自宅又ハ病院其

ノ他ノ收容所ニ移送スルモノニシテ組合ニ於テ必要アリト

認メタル場合ニ給付ス

緊急ノ場合組合指定醫師ノ診療ヲ受クルコト困難ナルトキ

ハ組合指定外ノ醫師ニ付必要ナル手當ヲ受ケタル後組合ニ

申告シ治療給付ノ取扱ヲ受クルコトヲ得

第二十五條 治療給付ヲ受クヘキ者左ノ各號ノ一ニ該當スル

場合ハ治療ノ給付ニ代ヘ治療費ヲ支給スルコトヲ得

一、緊急ノ場合組合指定醫師以外ノ診療ヲ受ケ組合ニ於テ

スル等級ニ依リ癡疾保険金ヲ支給ス
左記ノ場合ニ於テハ前二項ノ定ムル等級ヲ左ノ如ク繰上ク

- 一、第十三級以上ノ身體障害ニ以上ヲ存スルトキ 一級
 - 二、第八級以上ノ身體障害ニ以上ヲ存スルトキ 二級
 - 三、第五級以上ノ身體障害ニ以上ヲ存スルトキ 三級
- 別表ニ掲クルモノ以外ノ身體障害ニ付テハ障害ノ程度ニ應シ別表ニ準シ組合之ヲ定メ癡疾保険金ヲ支給ス
既ニ身體障害ヲ存スル部位ニ障害ヲ加重セラレタルトキハ既ニ存シタル障害ノ該當スル癡疾保険金額ヲ差引キタル金額ヲ支給ス

第二十八條

組合員業務上ノ負傷又ハ疾病ニ依リ死亡シタルトキハ遺族又ハ組合員ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニ其ノ保險給付種別ニ依リ左ノ死亡保險金ヲ支給ス但シ事業主カ乙種特別組合員ナル場合ハ此ノ限ニ在ラス

- 一、甲種死亡保險金 金三百六十圓
- 二、丙種死亡保險金 金百五十圓

第二十九條

前條ノ死亡保險金ノ支給ヲ受クヘキ遺族ハ配偶者トス
配偶者ナキ場合死亡保險金ヲ受クヘキ者ハ組合員ノ死亡當時之ト同一ノ家ニ在リタル直系尊屬又ハ直系尊屬トシ其ノ

順位ハ親等近キ者ヲ先ニシ中屬ト尊屬ト親等同シキトキハ卑屬ヲ先ニス
前項ニ依リ定メタル同順位者ノ間ニ在リテハ左ノ順位ニ依ル

- 一、組合員ノ家督相續人又ハ戸主ハ他ノ者ヨリ先ニス
- 二、男ハ女ヨリ先ニス
- 三、直系卑屬ニシテ男又ハ女ノ間ニ在リテハ嫡出子ヲ先ニシ嫡出子、庶子及私生子ノ間ニ在リテハ嫡出子及庶子ハ女ト雖モ私生子ヨリ先ニス
- 四、前二號ニ依リ定メタル同順位者ノ間ニ在リテハ年長者ヲ先ニス

組合ハ前三項ノ規定ニヨリ死亡保險金ヲ受クルヲ得ヘキ者

ノ同意ヲ得タルトキハ前三項ノ定ムル者ノ中規定ノ順位ニ拘ラス一人ヲ指定シ死亡保險金ヲ支給スルコトヲ得

第三十條

前條ノ規定ニ該當スル者無キトキハ左ニ掲クル者ノ中一人ヲ組合ニ於テ定メ死亡保險金ヲ支給ス但シ組合員ハ之ニ從フコトヲ得

- 一、組合員ノ家督相續人又ハ戸主
- 二、組合員ノ死亡當時之ト同一ノ家ニ在リタル兄弟姉妹
- 三、組合員ノ親族又ハ之ニ準スヘキ者ニシテ組合員ノ死亡

當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者

第三十一條

組合員業務上ノ負傷又ハ疾病ニ因リ死亡シタルトキハ遺族又ハ組合員ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ葬祭ヲ行フ者ニ葬祭料金三十圓ヲ支給ス前項ニ依ル葬祭料ノ支給ヲ受クヘキ者無キトキハ葬祭ヲ行ヒタル者ニ三十圓以内ニ於テ葬祭ニ要シタル費用ヲ支給ス

第三十二條

正組合員三種治療給付ヲ受ケ第十條第一項第三號ニ該當シ正組合員ノ資格ヲ喪失シ治療給付期間満了ノ日ヨリ三十日以内ニ同一傷病ニ因リ死亡シ又ハ身體ニ障害ヲ存スルニ至リタルトキハ正組合員ノ資格ヲ有シタル場合ニ於テ受クルヲ得ヘキ死亡保險金葬祭ニ要シタル費用又ハ癡疾保險金ノ支給ヲ受クルコトヲ得

第三十三條

第二十四條第一項第一號ノ規定ニ依リ治療給付若ハ治療費ノ支給ヲ受クル負傷又ハ疾病保險給付開始後一年ニシテ治療セザルトキハ金五百四十圓(第三十七條ニ該當スルモノハ二百七十圓)ノ打切療養料ヲ支給シ以後第二十四條乃至第二十八條及第三十一條ノ保險給付ヲ爲ササルコトヲ得

第三十四條

組合員別表第八級以上ノ癡疾保險金又ハ打切療養料ヲ受ケ十五日以内ニ保養ノ目的ヲ以テ歸郷スルトキハ

左ノ各號ノ範圍ニ於テ必要ナル旅費ヲ支給ス

- 一、汽車又ハ汽船ノ三等賃金
- 二、乗合自動車ノ賃金
- 三、宿 泊 料
- 四、食 事 費

第三十五條

組合員左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ期間治療給付及治療費、休養手當ノ支給ヲ爲サズ

- 一、陸海軍ニ徵集又ハ召集セラレタルトキ
- 二、刑務所、留置場又ハ勞務場ニ拘禁又ハ留置セラレタルトキ

第三十六條

正當ナル理由ナク治療給付ニ關シ組合ノ指示ニ從ハサルトキハ治療給付及休養手當ノ全部又ハ一部ヲ支給セザルコトアルヘシ

第三十七條

自己ノ重大ナル過失ニ因リ負傷シ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ休養手當及癡疾保險金ハ之ヲ支給セス

第三十八條

組合ハ保險給付ニ關シ必要アル場合組合ノ定ムル醫師ヲシテ給付ヲ受クル者ヲ診斷セシムルコトヲ得

第三十九條

保險給付ハ之ヲ受クヘキ者ノ請求ニ依リ支給ス

第四十條

保險給付請求者ハ組合ノ求ムル場合保險給付ノ決定ニ關シ必要ナル證書書類ヲ提出スルコトヲ要ス

第四十一條

保險給付ハ左記各號ノ定ムル期限内ニ請求セサルトキハ之ヲ支給セズ

- 一、治療又ハ治療費、休養手當、療疾保險金、死亡保險給付種別ニ依リ左ノ如ク定ム
- イ、甲種及乙種保險給付 給付事由發生ノ日ヨリ一年
- ロ、丙種保險給付 給付事由發生ノ日ヨリ九十日
- 二、葬祭料ハ死亡ノ日ヨリ三十日
- 三、歸郷旅費ハ療疾保險金又ハ打切療養料ノ支給ヲ受ケタル日ヨリ十四日

第四十二條

保險給付ヲ受クル權利ハ之ヲ讓渡スルコトヲ得ス

第二節

普通傷病、死亡保險給付

第四十三條

正組合員第二十二條ノ定ムル業務以外ニ於テ負傷シ又ハ疾病ニ罹リ罹リ若ハ死亡シタルトキハ本節ノ規定ニ依リ左ニ掲クル保險給付ヲ爲ス但シ第二號乃至第六號ノ給付ハ正組合員トシテ十五日分以上ノ掛金ヲ納メタル者ニ適用ス

- 一、治療又ハ治療費
- 二、休養手當
- 三、療疾保險金

四、死亡保險金

- 五、葬祭料
- 六、歸郷旅費

第二十二條第一項但書ノ規定ハ前項ニ準用ス

第四十四條

正組合員負傷シ又ハ疾病ニ罹リ治療ヲ要スルトキハ同一ノ傷病ニ付四十日ヲ超エサル期間組合指定ノ醫師ニ付治療ヲ給付ス但シ正組合員ノ資格ヲ得ル以前既ニ有シタル疾患ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十四條第一項但書、同條第二項乃至第五項及第二十五條ノ規定ハ前項ニ準用ス

第四十五條

前條ニ依リ治療給付又ハ治療費ノ支給ヲ受クル者療養ノ爲勞務ニ服スル能ハサルニ因リ賃金ヲ受ケサルトキハ勞務ニ服スル能ハサルニ至リタル日ヨリ起算シ第六日ヨリ一日ニ付金六十錢ノ休養手當ヲ支給ス但シ病院ニ收容シ組合ニ於テ食費ヲ負擔スル場合ハ之ヲ支給セズ

第四十六條

第四十四條ノ治療給付又ハ治療費ノ支給ヲ受クル者負傷又ハ疾病治療シタル時ニ於テ身體ニ障害ヲ存スルトキハ別表(身體障害等級及療疾保險金表)ノ區別ニ依リ

普通療疾保險金ヲ支給ス

第二十七條第二項乃至第五項ノ規定ハ前項ニ準用ス

第四十七條

正組合員死亡シタルトキハ遺族又ハ組合員ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニ死亡保險金百圓ヲ支給ス

前項ノ死亡保險金ノ支給ヲ受クヘキ者ノ決定ニ付テハ第二十九條及第三十條ノ規定ヲ準用ス

第四十八條

第三十一條ノ規定ハ正組合員死亡ノ場合ニ準用ス

第四十九條

第三十二條ノ規定ハ第四十四條ノ規定ニ依リ治療給付又ハ治療費ノ支給ヲ受ケタル者ニ準用ス

第五十條

第三十四條ノ規定ハ第四十六條ノ規定ニ依リ普通療疾保險金ノ支給ヲ受ケタル者ニ準用ス

第五十一條

保險給付ノ原因タル事故力自己ノ故意ニ因ルモノナルトキハ本節ノ保險給付ハ爲サズ

第五十二條

第三十五條乃至第四十條、第四十一條第一號

ロ、同條第二號、第三號及第四十二條ノ規定ハ本節ノ保險給付ニ準用ス

第三節 失業保險給付

第五十三條

正組合員ニシテ掛金五日分以上ヲ納メタル者失

業シタルトキハ本節ノ規定ニ依リ失業保險金ヲ支給ス但シ第八條ノ適用ヲ受クル組合員ニシテ組合加入ノ際豫告ヲ以テ失業保險規定ヲ適用セサルコトヲ定メタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第五十四條

正組合員左ノ各號ノ一ニ該當シタルトキハ失業セルモノト認定ス但シ紹介所力紹介ノ取扱ヲ爲ササル日ニシテ組合豫告ヲ以テ定メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

- 一、就業ノ目的ヲ以テ組合ノ定ムル出頭時刻前紹介所ニ出頭シ組合ノ定ムル失業決定時刻迄ニ就業シ得サルトキ
- 二、第十四條但書ノ規定ニ該當セル者就業ノ目的ヲ以テ組合ノ定ムル失業決定時刻前紹介所ニ出頭シ失業決定時刻迄ニ就業シ得サルトキ

前項ノ場合ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ失業ト認メズ

- 一、労働力ナキ者
- 二、正當ナル理由ナク紹介所ノ指定セル業務ニ就クコトヲ拒ミタル者
- 三、同盟罷業ニ加盟セル者

第一項ノ規定ニ依リ失業ノ認定ヲ受ケタル後ト雖モ就業シタルトキハ失業ノ認定ヲ取消ス

第五十五條

正組合員前條ニ依リ失業ノ認定ヲ受ケタル日ニ於テ左ノ全條件ヲ具備セルトキハ失業保險金五十錢ヲ支給ス但シ前條第一項第二號ニ該當スル者ニシテ其ノ日ノ賃金合計カ五十錢ニ達スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

- 一、其ノ日ヨリ起算シ前三日間連續失業セルコト
- 二、其ノ日ヨリ起算シ前十日間ニ四日以上失業セルコト
- 三、其ノ日ヨリ起算シ前十日間ニ一回以上就業シ掛金ヲ納メタルコト

失業保險金ハ連續三日ヲ超エ又ハ十日間ニ四日ヲ超エテ支給セス

前條第一項但書ノ規定ニ依リ失業ノ認定ヲ爲ササル日ハ第一項各號ノ定ムル期間ノ日數ニ加ヘズ

第五十六條

失業保險金ハ本人ニ限り支給ス

失業保險金ハ代理ヲシテ受取ラシムルコトヲ得ス

第五十七條

失業保險金ハ即日規定ノ時刻ニ支給ス但シ調査ノ爲時日ヲ要スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十八條

失業保險金ハ前條ノ定ムル時刻ニ支給ヲ受ケサルトキハ之ヲ支給セス但シ前條但書ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五十九條

失業保險金ノ支給ヲ受ケタル後第五十四條第三

項ノ規定ニ依リ失業ノ認定ヲ取消サレタル場合既ニ受ケタル保險金ハ返還スルヲ要セス

第五章 役員及機關

第六十條 組合ニ左ノ役員ヲ置ク

- 一、理事長 一名
- 二、理事 若干名（内常務理事若干名ヲ定ム）
- 三、監事 二名
- 四、幹事 若干名
- 五、評議員 若干名
- 六、書記 若干名

第六十一條 理事長ハ神戸市長ノ職ニ在ルモノヲ推舉ス

第六十二條 理事ハ理事長之ヲ委嘱ス

理事ノ任期ハ二年トス但シ再任ヲ妨ケス

第六十三條 監事ハ縣市會計課長ノ職ニ在ル者ヲ委嘱ス

第六十四條 幹事ハ市立労働紹介所長ノ職ニ在ル者又ハ之ニ準スル者ヲ委嘱ス

第六十五條 評議員ハ組合員、特別組合員、市立労働紹介所員其ノ他ヨリ理事長之ヲ委嘱シ任期ヲ一ケ年トス但シ再任ヲ妨ケス

第六十六條 本組合役員ハ名譽職トス但シ常務理事及ヒ書記

ハ有給トナスコト得

第六十七條

理事長ハ理事會ノ定ムル處ニ從ヒ事務ヲ總理シ組合ヲ代表ス

常務理事ハ理事長ヲ補佐シ庶務會計ニ關スル事務ヲ掌理ス

監事ハ組合財産ノ保管並ニ會計事務ヲ監督ス

幹事ハ理事長及常務理事ヲ補佐シ事務ヲ處理ス

書記ハ理事長及常務理事ノ命ヲ受ケ事務ヲ處理ス

第六十八條

本組合ノ機關ヲ定ムルコト左ノ如シ

一、理事會

二、評議員會

理事會ハ理事ヲ以テ組織シ組合ノ重要事項ヲ協議決定ス

理事會ハ理事長ヲ議長トシ議事ハ過半数ヲ以テ決定シ可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

評議員會ハ評議員ヲ以テ組織シ理事會ノ諮問ニ應シ又ハ意見ヲ陳述ス

評議員會ハ理事長ヲ以テ議長トシ可否ノ決定ニ關シテハ理事會ノ場合ニ同シ

第六十九條 理事長ハ毎年一回評議員會ヲ召集スルコトヲ要ス

評議員半以上ノ請求アリタルトキ又ハ理事長ニ於テ必要ア

ス

第六十九條

理事長ハ毎年一回評議員會ヲ召集スルコトヲ要ス

評議員半以上ノ請求アリタルトキ又ハ理事長ニ於テ必要ア

ス

リト認メタルトキハ臨時評議員會ヲ召集スルコトアルヘシ

第六章 雜則

第七十條 本規約施行ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

第七十一條 本規約ハ評議員會ニ諮問ヲ爲シタル上理事會ニ於テ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニ非サレハ改廢セサルモノトス

第七十二條 本組合解散シタルトキハ理事清算人トナル

第七十三條 本規約ハ昭和七年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和七年一月一日施行神戸労働保險組合規約ハ本規約施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第七十四條 本規約施行前ニ發生シタル事故ニ付テハ舊規約ニ依リ取扱フ

（別表略）

第七十四條 本規約施行前ニ發生シタル事故ニ付テハ舊規約ニ依リ取扱フ

（別表略）

第七十四條 本規約施行前ニ發生シタル事故ニ付テハ舊規約ニ依リ取扱フ

（別表略）

第七十四條 本規約施行前ニ發生シタル事故ニ付テハ舊規約ニ依リ取扱フ

（別表略）

第七十四條 本規約施行前ニ發生シタル事故ニ付テハ舊規約ニ依リ取扱フ

（別表略）

第七十四條 本規約施行前ニ發生シタル事故ニ付テハ舊規約ニ依リ取扱フ

（別表略）

第七十四條 本規約施行前ニ發生シタル事故ニ付テハ舊規約ニ依リ取扱フ

神戸労働保険組合同規約施行細則

昭和七年十一月一日
成立

第一章 組合員

第一條 正組合員及準組合員（以下組合員ト稱ス）ハ組合名簿（様式第一號）ニ資格登録ヲ受クヘシ
組合員ノ資格ハ前項ノ登録ニ依リ發生ス

組合員第一項ノ登録事項ニ變更アリタルトキハ直ニ組合ニ届出テ登録ノ訂正ヲ受クヘシ

第二條 組合員ハ前條ノ登録ヲ受ケタル出張所ニ其ノ組合籍ヲ有ス

第三條 規約第六條第一項但書ノ規定ニ依リ組合員ト爲スヲ得サル者左ノ如シ

- 一、治療ヲ要スル疾患又ハ治療ヲ要スルニ至ルヘキコト瞭ナル疾患ヲ有スル者
- 二、心身ニ著シキ缺陷ヲ有シ労働ヲ爲スコト危険ト認ムヘキ者
- 三、健康及性能労働ニ適セサル者

第四條 準組合員ニハ様式第二號ノ準組合員證ヲ交付ス

四〇四

準組合員正組合員ト成リタルトキハ準組合員證ヲ返付スヘシ

第五條 正組合員ニハ様式第三號ノ正組合員證ヲ交付ス

第六條 準組合員證及正組合員證（以下組合員證ト稱ス）ハ組合員常ニ携帯シ組合係員ノ請求シタルトキ其ノ他必要ノ場合之ヲ呈示スヘシ

組合員證ノ効力ハ發行當月限トス
組合員證有効期限ヲ經過シタルトキハ之ヲ組合ニ返付シ新組合員證ノ交付ヲ受クヘシ

組合員證ヲ紛失シ又ハ汚損シタルトキハ直ニ組合ニ届出テ再交付ヲ受クヘシ

第七條 組合員證ハ日課簿ヲ兼ヌルモノニシテ左ノ場合係員ニ差出シ日課簿ニ證印ヲ受クヘシ

- 一、紹介所ニ出頭シタルトキ（規定出頭時刻外ノ場合ヲ除ク）
- 二、労働ノ紹介ヲ受ケタルトキ（組合ノ承認ヲ經テ直接就業場ニ出頭スル場合ヲ除ク）
- 三、掛金ヲ組合ニ納ムルトキ
- 四、失業ノ決定ヲ受ケタルトキ
- 五、保険給付ヲ受ケタルトキ

六、割戻票又ハ割戻金ヲ受クルトキ

第八條 組合員證ハ他人ニ譲渡シ又ハ貸與スルコトヲ得ス

第九條 規約第八條ノ定ムル豫告ハ當該組合出張所ニ之ヲ揭示ス

第十條 甲種又ハ乙種特別組合員タラムトスル者ハ左記ノ事項ニ付組合ト契約ヲ締結スヘシ

- 一、保険ニ付スヘキ労働者ニ關スル事項
 - 二、労働者ヲ使用スル工事ノ名稱、場所及註文主
 - 三、保険契約期限ニ關スル事項
 - 四、保険給付事項
 - 五、掛金高及掛金ノ方法
 - 六、其ノ他必要ナル事項
- 丙種特別組合員タラムトスル者ハ組合ニ於テ必要アリト認メタル場合必要ナル保険事項ニ付組合ト契約ヲ締結スヘシ

第二章 掛金及割戻金

第十一條 組合員ノ掛金ハ就業ノ日之ヲ納ムルモノトス但シ神戸市立労働紹介所（以下紹介所ト稱ス）ノ賃金立替規定ニ依リ賃金ヲ受クル者ハ就業ノ日ヨリ十日ヲ超エサル期間ニ於テ賃金ヲ受クル時ニ納ムルコトヲ得

前項但書ノ規定ニ依リ掛金ヲ納ムル者ハ賃金引換票指定欄

ニ組合員ノ番號及氏名ヲ記入スルコトヲ要ス

組合員掛金ノ收納ハ日課簿ノ捺印ニヨリ之ヲ證ス

第十二條 特別組合員ノ掛金ハ組合員雇傭ノ日之ヲ納ムルモノトス但シ掛金納入期限ニ付組合ト別段ノ契約アル場合ハ之ニ從フ

特別組合員ノ掛金收納ハ様式第五號ノ領收證ニ依リ之ヲ證ス

第十三條 割戻金及再割戻金ノ支拂ヲ受ケムトスル者ハ割戻ヲ爲サルヘキ月ノ組合員證ヲ其ノ所屬出張所ニ差出スヘシ
前項ニ依リ組合員證ヲ差出シタル者ニ對シ組合ハ毎月十日ヲ以テ締切リ割戻金ヲ計算シ様式第六號ノ割戻票ヲ交付ス
組合員割戻票領收證欄ニ記名捺印シ所屬出張所ニ差出シタルトキハ割戻金ヲ支拂フ但シ割戻金支拂時刻ニ限ル

第十四條 規約第二十條ノ收支決算報告ハ主ナル組合出張所ニ之ヲ揭示ス

第三章 保險給付

第一節 災害、疾病、死亡保險給付

第十五條 規約第二十二條第一項但書及第四十三條第二項ノ規定ニ依リ保險給付ヲ爲ササル場合左ノ如シ

一、民法ノ規定ニ依リ損害賠償ヲ受クルトキ
二、事業主又ハ加害者若ハ其ノ代理人ヨリ損害賠償若ハ其ノ他ノ給與ヲ受クルトキ

三、國又ハ公共團體若ハ之ニ準スル者ノ給與ヲ受クルトキ
第十六條 治療給付ヲ受ケムトスル者ハ組合係員ニ請求シ其ノ指示ニ從フヘシ

規約第二十四條及同第二十五條ノ規定ニ依リ治療給付又ハ治療費ノ支給ヲ受クルニハ傷病ノ原因ニ關スル事業主ノ證明書(様式第七號)ヲ組合ニ提出スヘシ

第十七條 規約第二十四條及同第四十四條ノ治療ハ左ノ各號ノ順序ニ依リ給付ス

- 一、組合ハ醫師ヲ指定シ初診票(様式第八號)及治療費計算書(様式第十一號)ヲ發行シ組合員ニ交付ス
- 二、組合員ハ初診票及治療費計算書ヲ醫師ニ差出シ診察及治療ヲ受クヘシ
- 三、組合員診察ヲ受ケタルトキハ診断書(様式第九號)ニ醫師ノ要項記入捺印ヲ受ケ之ヲ組合ニ差出スヘシ
- 四、引續キ治療ヲ給付スヘキ場合組合ハ通療簿(様式第十號)ヲ發行シ組合員ニ交付ス但シ通療簿ノ通用ハ發行ノ日ヨリ十日ヲ限度トシ組合指定ノ日迄トス

第二十一條 休養手當ノ支給ヲ受ケムトスル者ハ様式第十三號ニ依リ請求スヘシ

休養手當ハ日々之ヲ支給ス但シ給付ノ決定ニ關シ調査ヲ要スル場合ハ給付決定後支給ス

規約第二十五條及第四十四條第二項ニ依リ治療費ノ支給ヲ受クル者休養手當ヲ請求スル場合ハ治療擔當者ノ治療經過ニ關スル證明書ヲ提出スヘシ

規約第四十五條第二項ニ依リ休養手當ノ一部ヲ支給スヘキ場合左ノ如シ

- 一、組合ノ爲ス治療給付以外ニ於テ療養上必要ナル物件ノ購入ニ付組合員ニ其ノ資力無キトキ
- 二、家族ノ生計困難ナルトキ

第二十二條 療疾保險金ノ支給ヲ受ケムトスル者ハ様式第十四號ニ依リ請求スヘシ

前項ノ請求書ニハ治療擔當醫師ノ傷病經過及障害程度ニ關スル證明書ヲ添附スヘシ

第二十三條 死亡保險金ノ支給ヲ受ケムトスル者ハ様式第十五號ニ依リ請求スヘシ

規約第二十八條ニ依リ死亡保險金ヲ請求スル者ハ死亡ノ原因ニ付キ事業主ノ證明書(様式第七號)ヲ提出スヘシ但シ

- 五、同一傷病ニテ引續キ治療ヲ受クルトキハ通療簿ヲ差出シ治療事項ニ付醫師ノ記入捺印ヲ受クヘシ
- 六、通療簿ノ通用期限滿了シ尙治療ヲ要スル場合ハ舊通療簿ト引換ニ新通療簿ヲ發行交付ス
- 七、治療ヲ終ヘ又ハ打切りタルトキハ通療簿ヲ組合ニ返付スヘシ

第十八條 治療給付ヲ受クル者ヲ病院ニ收容スル場合左ノ如シ

- 一、重患者ニシテ自宅ニ於テ療養ヲ爲スコト困難ナルトキ
 - 二、適當ナル住居無キ爲療養困難ナルトキ
 - 三、傷病ノ性質上病院ニ收容ノ必要アルトキ
 - 四、其ノ他組合ニ於テ必要アリト認メタルトキ
- 第十九條** 規約第二十五條及第四十四條第二項ニ依リ治療費ノ支給ヲ受ケムトスル者ハ様式第十二號ニ依リ請求スヘシ前項ノ請求書ニハ左ノ證明書類ヲ添附スヘシ
- 一、診 斷 書
 - 二、治療經過證明書
 - 三、治療費領收證若ハ請求書
- 第二十條** 治療給付費用ハ前條ノ場合ヲ除キ治療ヲ擔當シタル者ニ支拂フ

第十六條第二項ノ規定ニ依リ事業主ノ證明書ヲ提出セル傷病ニ因リ死亡シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第一項ノ請求書ニハ左ノ各號ノ書類ヲ添附スヘシ但シ第二十五條第二項ノ規定ニヨリ別ニ提出セルモノアルトキハ之ヲ兼用スルコトヲ得

- 一、死亡診斷書
- 二、戶籍謄本(死亡届出後ノモノ)若ハ除籍謄本
- 三、請求人ノ印鑑證明書
- 四、請求人ト組合員ノ關係ヲ證明スヘキ書類(戶籍謄本若ハ除籍謄本ノ提出ニ依リ證明セラレル部分ニ付テハ重テ添附スルヲ要セス)

第二十四條 規約第三十條第三號ニ於テ親族ニ準スヘキ者ト稱スルハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ謂フ

- 一、組合員ノ内縁ノ妻又ハ夫
- 二、前號ノ定ムル者ノ子又ハ父母
- 三、其ノ他組合ノ定ムル者

第二十五條 規約第三十一條又ハ同第四十八條ニヨリ葬祭料又ハ葬祭ニ要シタル費用ノ支給ヲ受ケムトスル者ハ様式第十六號ニ依リ請求スヘシ

前項ノ請求書ニハ左ノ各號ノ書類ヲ添附スヘシ但シ第二十

三條第三項ノ規定ニ依リ別ニ提出セルモノアルトキハ之ヲ兼用スルコトヲ得

一、死亡診断書

二、戶籍謄本(死亡届出後ノモノ)若ハ除籍謄本(戶籍謄本又ハ除籍謄本ヲ提出スルコトヲ得サル場合ハ埋火葬認可證明書)

三、請求人ノ印鑑證明書

四、請求人ト組合員ノ關係ヲ證明スヘキ書類(戶籍謄本若ハ除籍謄本ノ提出ニ依リ證明セラルル部分ニ付テハ重テ添附スルヲ要セス)

五、葬祭ニ要シタル費用ニ關スル證書書類(葬祭料ヲ請求スルモノハ之ヲ要セス)

第二十六條 打切療養料ヲ支給セムトスルトキハ様式第十七號ニ依リ請求セシム

第二十七條 歸郷旅費ノ支給ヲ受ケムトスル者ハ様式第十八號ニ依リ請求スヘシ

第二十八條 治療費、休養手當、療疾保險金、死亡保險金、葬祭料若ハ葬祭ニ要シタル費用、歸郷旅費、打切療養料ノ支給ヲ受クル者ハ様式第十九號ニ依リ保險給付領收證ヲ差出スヘシ

テハ舊施行細則ニ依リ取扱フモノトス

神戸市救濟協會規程

昭和十年八月五日
定

第一條 本會ハ神戸市救濟協會ト稱ス

第二條 本會ハ罹災者ノ救助及社會事業ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第三條 本會ハ前條ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ

一、非常災害ニ依ル罹災者ニ對スル慰問金品ノ給與並ニ其ノ他ノ救助

二、社會事業團體其ノ他ニ對スル寄附金品ニシテ本會ニ分配方委託アリタル場合之カ受託及交付

三、前各號ノ外理事會ニ於テ必要ト認メタル事項

第四條 本會ノ事務所ハ神戸市役所社會課内ニ置ク

第五條 本會ノ經費ハ補助金、寄附金及其ノ他ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

第六條 本會ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第七條 本會ニ左ノ職員ヲ置ク
理事

治療給付擔當者カ治療給付ニ要シタル費用ノ支拂ヲ受クル場合亦同シ

第二十九條 甲種又ハ乙種保險給付ノ適用ヲ受クヘキモノ自己ノ重大ナル過失ニ依リ負傷シ又ハ疾病ニ罹リタル場合ニ於テ規約第三十七條ヲ適用セムトスルトキハ其ノ事實ニ付地方長官ノ認定ヲ受クルモノトス

第二節 失業保險給付

第三十條 規約第五十三條但書ノ規定ニ依ル豫告及規約第五十四條第一項但書ノ規定ニ依リ失業ノ認定ニ關スル取扱ヲ爲ササル日ノ豫告ハ失業保險事務ヲ取扱フ組合出張所ニ之ヲ揭示ス

第三十一條 失業保險金ヲ受クヘキ者ハ所屬出張所ニ組合員證ヲ呈出シ之ヲ請求スヘシ

第三十二條 失業保險金ヲ受クル者ハ様式第二十號ノ失業保險給付書ニ受領印ヲ押捺スヘシ

附 則

第三十三條 本則ハ昭和七年十一月一日ヨリ施行ス

昭和二年八月一日施行ノ神戸勞働保險組合理行細則ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第三十四條 規約第七十四條ニ依リ保險給付ヲ受クル者ニ付

幹 事

第八條 理事中一名ハ會長二名ハ副會長二名ハ常務理事トシ會長ハ神戸市長、副會長ハ神戸市助役、常務理事中一名ハ神戸市社會課長一名ハ神戸市會計課長ノ職ニ在ルモノヲ以テ之ニ充ツ

其ノ他ノ理事ハ神戸市各局部區課長中ヨリ幹事及書記ハ其ノ他ノ市吏員中ヨリ會長之ヲ囑託ス

第九條 會長ハ本會ヲ代表シ本會ノ事務ヲ統轄ス會長事故アルトキハ副會長之ヲ代理ス

社會課長タル常務理事ハ會長ノ命ヲ承ケ會務ヲ掌理シ會長副會長共ニ事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

會計課長タル常務理事ハ本會ノ出納其ノ他會計事務ヲ掌ル其ノ他ノ理事ハ重要ナル會務ヲ審議ス

第十條 會務審議ノ爲必要ニ應シ理事會ヲ開ク

理事會ハ會長之ヲ招集ス

理事會ノ議長ハ會長之ニ當ル

理事會ノ議事ハ出席理事ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スルトコロニ依ル

第十一條 本會ノ豫算、決算、其ノ他ノ重要ナル事項ハ理事會ノ決スルトコロニ依リ會長之ヲ行フ

第十二條 本規程施行ニ付必要ナル事項ハ別ニ會長之ヲ定ム

附 則

本規程ハ昭和十年八月五日ヨリ之ヲ施行ス

神戸市岡崎社會事業積立金

管理細則

大正十二年三月三十一日
訓令 甲第一二二號

第一條 岡崎藤吉ヨリ寄附シタル現金五拾萬圓ハ基本財産管理規則第六條ニ依リ神戸市岡崎社會事業積立金ト稱シ之ヲ管理ス

第二條 積立金ヨリ生スル利子ハ社會事業ノ維持經費ニ充ツ

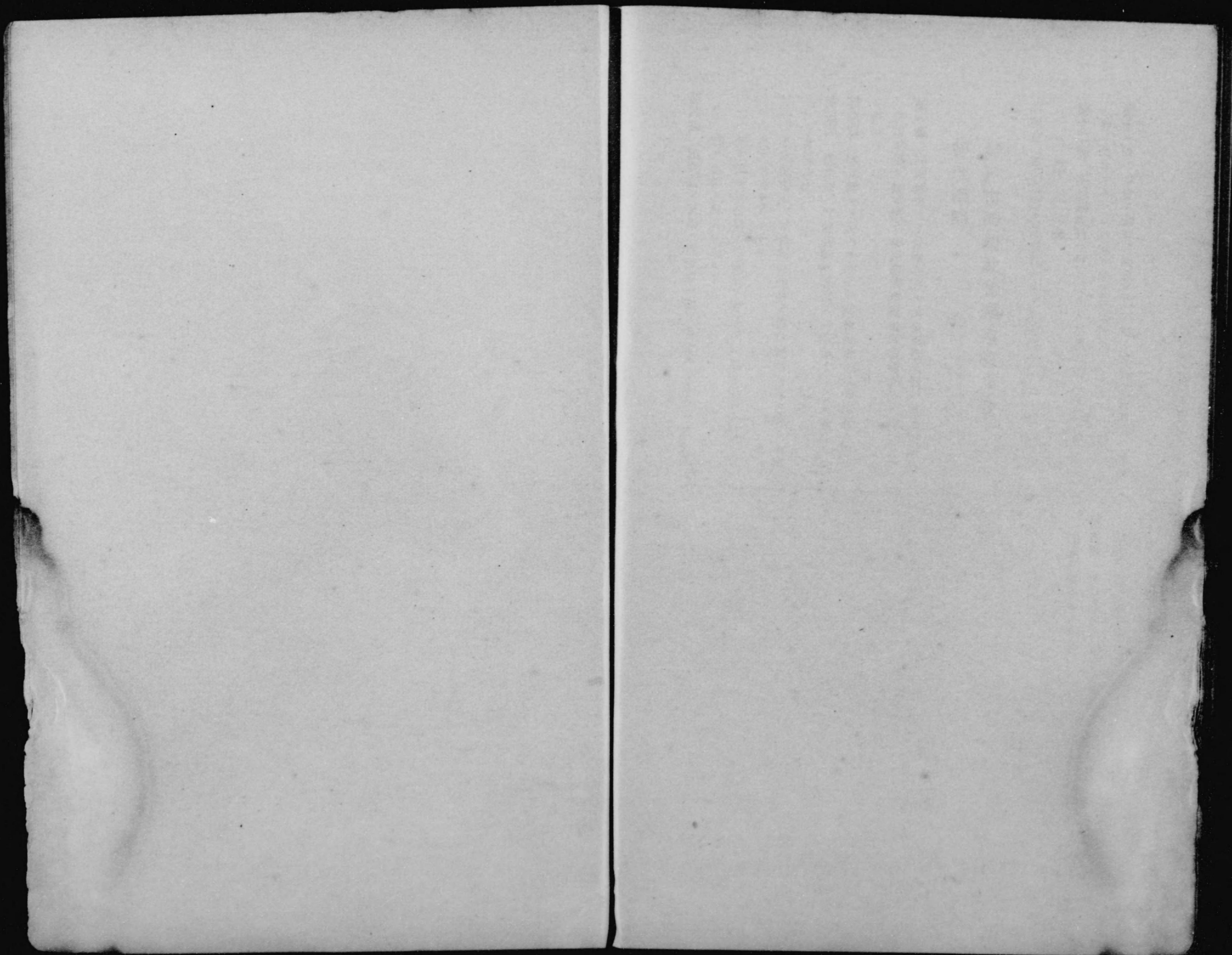
第三條 積立金ハ左記各號ニ該當スル場合ノ外之ヲ使用スルコトヲ得ス

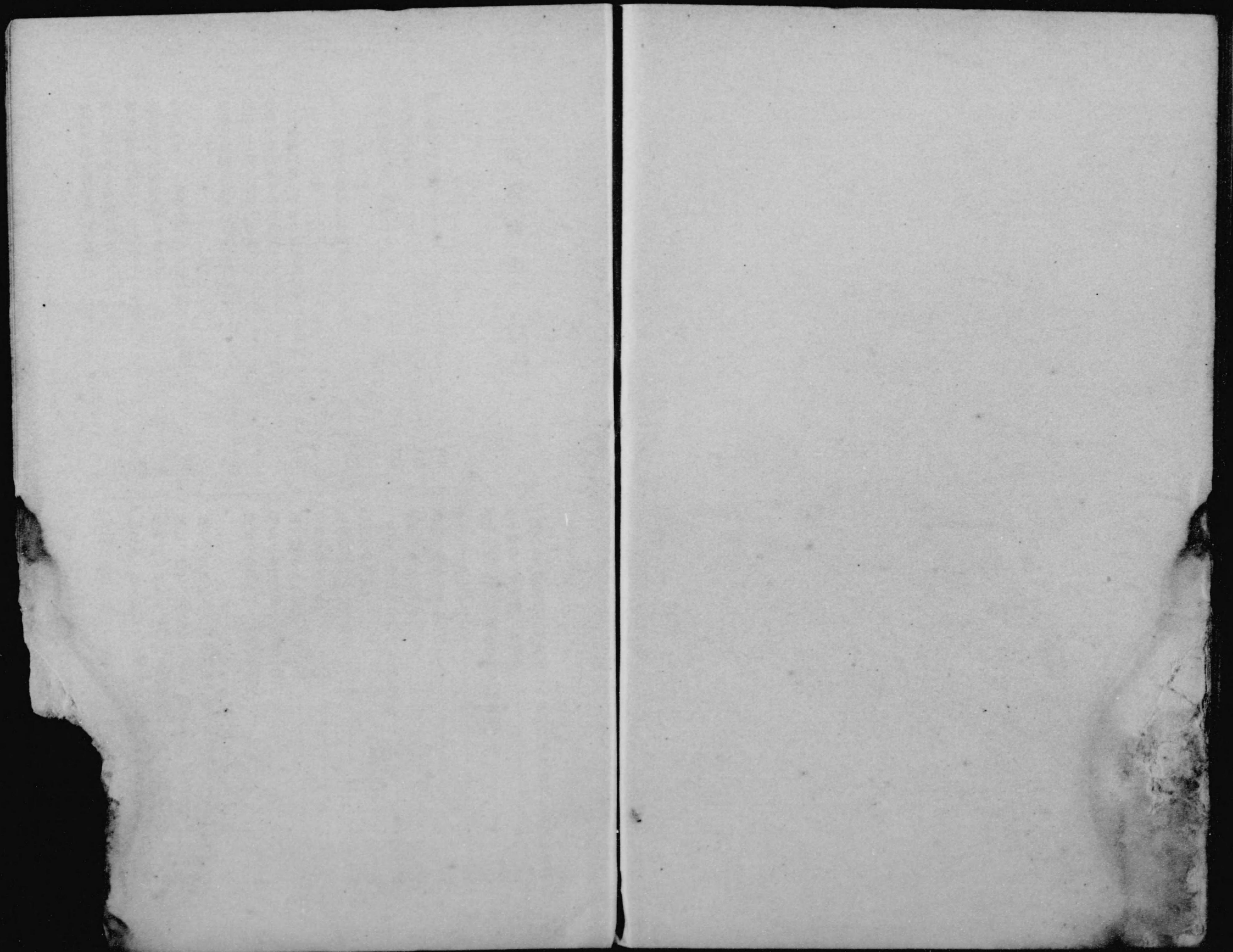
一、共同宿泊所、職業紹介所其ノ他社會的施設ニ對スル建築ヲ必要トスルトキ

二、兒童保護教養其ノ他緊急ヲ要スル公益事業研究竝ニ施設ヲ必要ト認メタルトキ

第四條 積立金ノ使用ハ前條第一號ノ場合ニ在リテハ貳拾萬

圓第二號ノ場合ニ在リテハ參拾萬圓ヲ限度トス
第五條 積立金又ハ利子ノ使用ハ之ヲ豫算ニ計上シテ市會ノ議決ヲ經ルモノトス





法規索引

(アイウエオ順)

イ

移住教養所官制……………三三

移民保護法……………三五

移民保護法施行細則……………三九

エ

營利職業紹介事業取締規則……………二六五

オ

大阪控訴院管内司法保護事業研究會會則……………三二

恩賜財團濟生會寄附行爲……………七一

恩賜財團濟生會救療規程……………七三

恩賜財團濟生會救療規程取扱心得……………七四

カ

海員ニ對スル職業紹介所設置ニ關スル條約……………三五

海員保護施設協議委員會規程……………二八

海外移住組合法……………三七八

海外移住組合法施行規則……………三〇

會計事務取扱規程(抄録)……………五

外國人タル行旅病人行旅死亡人及同伴者救護並ニ取扱特例……………三八

海事資源調査規則(抄録)……………三六

各種公營事業ニ失業者使用ノ件通牒……………三七

學校給食臨時施設方法……………二八

學齡兒童就學獎勵規程……………二七

學齡兒童就學獎勵規程……………三三

學齡兒童就學獎勵規程施行手續……………三三

花柳病豫防法……………二六

花柳病豫防法施行規則……………二九

花柳病豫防法施行令……………九

假出獄少年取締規則……………一五

簡易生命保險積立金運用規則……………二九

簡易生命保險積立金貸付規則……………三三

キ

棄兒ハ意志能力ナキモ廢家ヲ許ス件通牒……………二七

棄兒、迷兒、遺兒等ノ後見ニ關スル件……………二七

救育所ニ在ル孤兒ノ後見職務執行ニ關スル特例……………二七

救育所ニ在ル孤兒ノ後見職務ニ關スル件……………二六

救護施設並ニ救護費補助ニ關スル件通牒……………三三

救護費補助並ニ繰替支辨金ノ辨償ニ關スル件通牒	三三
救護法施行規則	三七
救護法施行細則	三三
救護法施行細則中改正ニ關スル件依命通牒	三五
救護法施行細則ニ關スル件通牒	三三
救護法施行ニ關スル件依命通牒	三七
救護法施行ニ關スル件通牒	三三
救護法施行令	三三
救護法施行令ニ依リ醫師齒科醫師藥劑師又ハ產婆指定ノ件	三三
救護法ニ依ル救護事務取扱規程	三五
矯正院官制	三五
矯正院處遇規程	一五
矯正院ノ位置及名稱	一五
矯正院法	一六一
行政執行法(抄録)	一五
行政廳ヲシテ委嘱ニ依リ濟生會ノ事務ヲ施行セシムルノ件	二二
區長分掌事項(抄録)	六
軍事救護法	四七

軍事救護法施行細則	四九
軍事救護法施行令	四九
墓妓、墓妓置屋營業取締規則(抄録)	一三三
警察犯處罰令	三五七
結核診療規程(抄録)	三九
結核ニ關スル生活費補給規程	三九
結核豫防法(抄録)	三八
結核豫防法施行細則(抄録)	三八
結核豫防法施行令(抄録)	三八
公益質屋ニ對スル國庫補助ノ件通牒	三二
公益質屋ノ生業資金貸付ニ關スル件依命通牒	三三
公益質屋ノ設備ニ對スル國庫補助金概算拂ノ件通牒	三三
公益質屋法	三三
公益質屋法施行期日ノ件	三六
公益質屋法施行規則	三六
公益質屋法施行細則	三六
公益質屋法施行ノ件依命通牒	三三
公益質屋法第三條ノ規定ニ依ル國庫補助ノ件	三三

興業場取締規則(抄録)	一三四
工業勞働者最低年齡法(抄録)	一三三
神戸市移住教養所規則	一八四
神戸市營住宅管理人心得	一八二
神戸市岡崎社會事業積立金管理細則	四一〇
神戸市會計規程(抄録)	五
神戸市救濟協會規程	四〇九
神戸市教導委員規程	三五三
神戸市共同住宅管理事務所處務規程	二二
神戸市共同住宅使用條例	二〇六
神戸市共同住宅使用條例施行細則	二〇九
神戸市共同住宅使用料完納獎勵規程	二二
神戸市區役所處務規程(抄録)	五
神戸市公設市場使用條例	二四五
神戸市公設質屋貸付資金管理規程	二四三
神戸市公設質屋處務規程	二四二
神戸市公設質屋條例	二四〇
神戸市公設質屋條例施行細則	二四一
神戸市公設食堂處務規程	二四六
神戸市兒童診療所使用料條例	二一〇

神戸市住宅組合元利支拂資金貸付規程	一七
神戸市住宅建築資金貸付規程	一七
神戸市巡回產婆規程	一〇五
神戸市巡回產婆服務心得	一〇六
神戸市職業紹介委員規程	三〇六
神戸市獎學金規程	一三
神戸市設社會事業研究委員規程	八
神戸市設住宅使用條例	一七九
神戸市設住宅使用條例施行細則	一八〇
神戸市保育所規程	二二
神戸市保育所處務規程	二二
神戸市方面委員聯合會規程	一四
神戸市社會事業協會會則	六
神戸市兒童愛護聯盟會規約	一三
神戸市役所處務規程(抄録)	四
神戸市立海員會館規程	三三
神戸市立海員會館使用條例	二九
神戸市立海員會館使用條例施行細則	三〇
神戸市立救護院規程	三〇

神戸市立共同宿泊所條例	二二三
神戸市立共同宿泊所條例施行規程	二二三
神戸市立共同宿泊所處務規程	二二四
神戸市立授産所規程	二二六
神戸市立職業紹介所處務規程	二二七
神戸市立屯田療養所規程	三〇七
神戸市立仲仕休憩所使用條例	九三
神戸市立仲仕休憩所使用條例施行細則	三三三
神戸市立保育所使用料條例	三三五
神戸市立無料宿泊所使用條例	二二一
神戸市立無料宿泊所使用條例施行細則	二二六
神戸市立労働紹介所紹介取扱細則	二二七
神戸労働保險組合規約	三三二
神戸労働保險組合規約施行細則	三三三
國民ヲシテ差別的偏見ヲ絶チ協調諸和ノ實ヲ 舉ケシムルノ件	三三三
戸籍法(抄録)	三三五
行旅病人ヲ火葬スルノ件	三三〇
行旅病人及行旅死亡人取扱法	三三七
行旅病人行旅死亡人及同伴者ノ救護並ニ取扱ニ關スル件	三三一
行旅病人死亡人等引取及費用辨償ニ關スル件	三三三

産業組合法中準用規定	一八五
産婆規則	一〇一
産婆規則施行細則	一〇三
質屋取締法	三三六
質屋取締法及同細則施行規則	三三九
質屋取締法細則	三三八
市(町)(村)生業資金貸付規程	三三〇
市(町)(村)生業資金貸付審査委員會規程	三三〇
失業應急事業竣功認定ニ關スル件通牒	三三九
失業應急事業ニ關スル件通牒	三三七
失業對策委員會官制	三五一
失業ニ關スル勸告	三五〇
失業ニ關スル條約	三三九
失業防止並ニ救済ノ爲ノ事業調節ニ關スル件	三五六
失業労働者就勞統制員設置ニ關スル件	三五六
兒童虐待防止法	二二五
兒童虐待防止法施行期日ノ件	二二五
兒童虐待防止法施行規則	二二六

兒童虐待防止法第七條ニ依ル業務及行爲ノ種類指定ノ件	二二五
兒童虐待防止法施行ニ關スル件通牒	三三一
兒童虐待防止法施行ニ關スル件依命通牒	三三〇
兒童虐待防止法ニ依ル費用負擔及國庫補助ニ關スル件	二二五
兒童相談所處務規程	二二〇
兒童相談所設置獎勵規程	二〇八
兒童生徒ノ個性尊重及職業指導ニ關スル件	三三八
司法省官制(抄録)	二
司法大臣官房分課規程(抄録)	二
社會改良事業獎勵規程	三四三
社會改良事業補助申請ニ關スル件通牒	三四四
社會局官制(抄録)	一
社會局分課規程(抄録)	一
社會事業職員養成規程	九
住宅資金貸付規程	一七三
住宅組合法款例	一六九
住宅組合法	一六三
住宅組合法施行期日ノ件	一六四
住宅組合法施行規則	一六四
住宅組合法施行細則	一六七

出獄人保護ニ關スル取扱方法	二八三
就勞統制員執務内規	二七八
就勞統制員職務規程	二七七
娼妓取締規則	三五五
職業紹介委員會官制	二九〇
職業紹介事務局官制	二八九
職業紹介事務局處務規程	二九二
職業紹介事務局又ハ職業紹介所紹介就職者 汽車汽船賃割引證交付規程	二九六
職業紹介事務局又ハ職業紹介所紹介就職者 汽車汽船賃割引證交付取扱心得	二九七
職業紹介事務局又ハ職業紹介所紹介就職者 汽車汽船賃割引ニ關スル件通牒	二九八
職業紹介所設置並ニ國庫補助ニ關スル件	二九四
職業紹介報告改正ノ件	三〇六
職業紹介報告ニ關スル件	三〇五
職業紹介法	二七九
職業紹介法施行期日ノ件	二八〇
職業紹介法施行規則	二八一

職業紹介法施行規則改正ニ關スル件通牒	二九二
職業紹介法施行規則ニ依ル聯絡職業紹介所規程	二九三
職業紹介法施行令	三〇八
傷兵院官制	二八〇
傷兵院入院者親族扶助料一時扶助料給與手續	二八〇
傷兵院法	二八〇
傷兵院法施行規則	二八〇
少年救護法	二八〇
少年救護法施行期日ノ件	二八〇
少年救護法施行規則	二八〇
少年救護法施行細則	二八〇
少年救護法施行ニ關スル件依命通牒	二八〇
少年救護法施行令	二八〇
少年職業指導委員會規程	二八〇
少年職業紹介ニ關スル件	二八〇
少年職業紹介ニ關スル件依命通牒	二八〇
少年職業紹介ニ關スル件通牒	二八〇
少年審判所設置ノ件	二八〇
少年審判費用規則	二八〇
少年法	二八〇

除隊兵就職斡旋ニ關スル件通牒	三三三
市立神戸市民病院規則	三三三
市立神戸市民病院處務規程	三三三
市立神戸市民病院使用料及手数料條例	三三三
市立神戸市民病院診療時間及休診日ノ件	三三三
診療所取締規則	三三三
水難救護法	三三三
水難救護法及船舶難破ニ關スル取扱心得	三三三
水難救護法施行細則	三三三
精神病院法(抄錄)	三三三
精神病院法施行規則(抄錄)	三三三
精神病院法施行令(抄錄)	三三三
精神病者監護法(抄錄)	三三三
精神病者市區町村長ニ於テ監護ニ關スル件(抄錄)	三三三
船員最低年齡法	三三三
船員職業紹介委員會官制	三三三
船員職業紹介法	三三三
船員職業紹介法施行期日ノ件	三三三

志員職業紹介法施行規則	三九
戰役記念保育會寄附行爲	一一三
戰役記念保育會細則	一一六
知識階級職業紹介ニ關スル件通牒	二九
賃銀立替並ニ就職旅費貸付狀況ニ關スル件通牒	三一
土地收用法(抄錄)	二二
トラホーム豫防法	二七
トラホーム豫防法施行規則	二七
入營者職業保障法	三〇
入營者職業保障法施行期日ノ件	三一
入營者職業保障法施行規則	三一
入營者職業保障法施行令	三一
非訟事件手續法中準用規定	二四
兵庫縣學校給食委員會規定	二〇
兵庫縣兒童就學獎勵規程	一九
兵庫縣處務規程(抄錄)	三

兵庫縣清和會規程	三三
兵庫縣清和會神戸支部規程	三八
兵庫縣方面委員規程	三〇
兵庫縣方面委員服務心得	三
兵庫縣立兒童研究所規程	一〇六
兵庫縣立兒童研究所處務規程	一〇七
葦合新川不良住宅地區改良臨時調查會規程	二〇六
部落改善獎勵ニ關スル件通牒	三六
不良住宅地區改良事業費國庫補助金概算拂ノ件通牒	二〇六
不良住宅地區改良法	一六
不良住宅地區改良法施行期日ノ件	一七
不良住宅地區改良法施行規則	一七
不良住宅地區改良法施行ニ關スル件依命通牒	一八
不良住宅地區改良法施行令	一七
褒章條例	二七
褒章條例取扱手續	二八
未成年者飲酒禁止法	三三

未成年者喫煙禁止法	三五
民法 (抄録)	三六
民法中準用規定	一八二
免因保護事業獎勵費取扱規程	三二
雇仲居、雇仲居置屋營業取締規則 (抄録)	一三三
融和事業ニ關スル教育の方策要綱	三三〇
融和事業ノ基調大成ノ方途	三三三
融和促進生業資金貸付規程	三三三
融和促進ニ關スル施設要綱	三三七
預金部普通地方資金融通規則 (抄録)	三六九
癩瘡防法 (抄録)	三六三
癩瘡防法施行規則 (抄録)	三六三
癩瘡防法施行細則	三六四
罹災救助基金管理及支出規程	三六九

罹災救助基金管理及支出規程施行ニ關スル件	三六九
罹災救助基金法	三七一
罹災救助基金法施行手續	三七一
利子計算期間ニ關スル民法中準用規定	三七一
料理屋飲食店席貸待合茶屋芝居茶屋營業取締規則 (抄録)	三七一
臨時保護調査會規程	三七一
聯絡取扱狀況ニ關スル件	三七一
聯絡ニ關スル件通牒	三七一
労働者募集取締令	三七一
労働紹介所利用促進ニ關スル件	三七一
労働貸銀立替並ニ就職旅費貸付狀況ニ關スル件通牒	三七一
労働手帳交付狀況ニ關スル件	三七一
六大都市行政監督特例	三七一

昭和十年十二月十五日印刷
昭和十年十二月二十日發行

共一冊

神戸市社会課

印刷者 佐野 伊平

印刷所

神戸市社会課印刷所
神戸市本町三丁目六九

